

滋賀県平和祈念館 第12回企画展示

空襲と疎開 (会期：平成27年10月3日～12月20日)



チラシ表面



チラシ裏面

ごあいさつ

15年戦争の末期、連合国軍にたいして日本軍は敗退を続け、やがて爆撃機が本土を空襲できるところまで後退します。本土決戦を辞さない日本軍部は、乏しくなった人材と資源を動員して準備を進めるとともに、空襲で主要建物が延焼しないよう周囲の民家を取り壊し、人口が多い大都会の学童を地方へ分散する方針をかためました。国民生活の場は戦いの場へと変わりはじめたのです。

本展示では大阪市から空襲を避けて滋賀県にやってきた約 12,000 人の疎开学童の様子を中心に紹介します。

平成27年(2015年)10月3日

滋賀県平和祈念館

第1章 15年にわたる戦争



満洲事変から太平洋戦争終結までの時期の新聞記事



海軍水兵用上衣、海軍水兵用軍袴、中着襟、衣囊、
昭和十九年度海軍志願兵の葉、軍艦旗、
海軍落下傘カバン（九七式落下傘用）など
後方のバナー写真：「第13期特修学生卒業記念」

〔碓本綾子さん提供〕



海軍第一種略帽（艦内帽）、海軍第二種略帽、海軍陸戦隊略帽、
海軍ゲートル



双眼鏡



海軍の履歴票、封筒、通知、充員召集令状、
海軍で使われていた食器、海軍特別糧食の箱

国家総力戦

日中戦争開始の翌年（昭和13年（1938年））、国家総動員法がさだめられました。国内の人員と物資すべてを戦争に利用するための法律です。

第二次世界大戦では大量の近代兵器と兵士が必要でしたので、参戦国は国内の人・財産・工業力すべてを使って兵器を作り、兵士と衣食料とともに戦地へ送らなければなりません。

資源がとぼしく工業力がおとる日本では、国民に厳しい節約を求め、食糧は配給制とし、金属・ゴム・羊毛などは日用品でも供出させられました。政府や軍を批判することは許されず、「国民精神総動員」のかけ声のもと、国民はすべてを国に捧げることが求められました。こうした国民の犠牲は、大政翼賛会にまとめられた労働組合・婦人会・青年団、自治会などを通して強制されていきました。



戦時中のポスター類

第2章 本土にせまる連合国軍

優勢だった日本海軍は、昭和17年のミッドウェー海戦をさかいに劣勢になり、昭和19年秋ごろには主要戦力をほとんど失いました。アメリカなど連合国軍の勢力は日本周辺にせまり、日本本土を航空機で爆撃できる距離に到達します。政府は都市部の空襲被害をさけるため、学童疎開と建物疎開をはじめます。



本土にせまる連合国軍

昭和17年6月のミッドウェー海戦で勝利したアメリカ軍は、南太平洋（オーストラリア軍と共同、ソロモン諸島⇒ニューギニア島⇒フィリピン）を攻めるルートと、中部太平洋（マーシャル諸島⇒マリアナ諸島⇒硫黄島・沖縄本島）を攻略して東南アジアとの物資補給路を分断するという、二方向を同時に攻める作戦を立てます。

昭和17年後半から18年中の海戦は、日米両海軍が一進一退を繰り返しましたが、圧倒的な工業力で戦力を回復しながら攻め続けたアメリカ軍に対して、日本軍は戦力回復が遅れ、物資の輸送船も失っていたため、形勢は急速に悪くなっていました。

昭和19年6月のマリアナ沖海戦で、日本海軍は航空母艦と艦載機のほとんどを失いました。同年7月には、マリアナ諸島の一島であるサイパン島の守備隊が全滅し、これにより絶対国防圏は破られました。

アメリカ軍は中国内陸部の成都から日本本土を空襲してきましたが、爆撃機は九州まで到達するのが限界でした。しかし、サイパン島を起点にすると、ほぼ日本全土が爆撃範囲に入ります。

このことは、ほとんどの国民生活の場が、戦場となったことを意味しました。政府はサイパン島を実

質的に断念した6月24日の直後、6月30日に「学
童疎開促進要綱」を閣議決定しました。



昭和17年(1942年)から20年(1945年)までの戦況概要



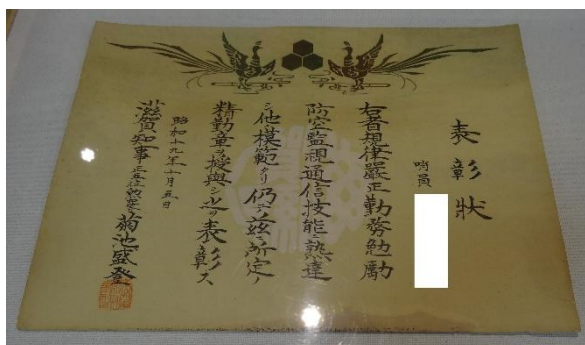
左：防空訓練(愛荘町東円堂 昭和14年10月30日)

木津龍尊さん提供

右：川合寺地先(今の東近江市)の国防婦人会による

竹やり訓練

西村 晃さん提供



表彰状



「国民防空図譜」昭和18年1月刊行

個人提供

陸軍報道部 監修、財団法人大日本防空協会 推薦、

大政翼賛会 後援、大日本防空報国会 発行

空襲の被害をおさえるため、国民は灯火管制・監視・消火・
救護などに従事しなければならず、事前に退去したり勝手に
避難することは禁止することが、防空法などにより定められ
ていました。

「国民防空図譜」は、軍に属さない一般国民がどのように空
襲に対処すべきかを周知するために出版されました。

全38枚のうち、本館はその一部を所蔵しています。



防空監視哨監視員腕章



灯火管制防空笠



焼夷弾、薬莢



防空用防毒面



防火用バケツ



左：防空頭巾、ブラウス、もんぺ

右：防空頭巾、もんぺ

第3章 学童疎開

政府は東京・大阪などに住む学童を、比較的安全な地方へ分散することを決定します。地方の親戚をたよる縁故疎開と学校ごとに行う集団疎開で避難させましたが、事情によって残った学童もいました。

学童疎開は、防空活動で都市を守る大人の足手まといを少なくすることと、次世代の戦力を温存し、育成することが目的でした。



疎開先に持っていったもの

- ・ 姉から譲り受けた弁当箱
- ・ 世界名婦かるた (少女倶楽部新年号附録)
- ・ 精華国民学校の紅白のはちまき



学童集団疎開

疎開区域に指定された大阪市は、昭和 19 年 7 月 14 日に学童疎開の実施を発表しました。対象は国民学校 3 年生から 6 年生とし、親戚などの縁故をたよる縁故疎開を原則として、縁故のない家庭に集団疎開をさせることにしています。

昭和 19 年 8～9 月に、近隣府県へ送り出した集団疎開の学童数は約 66,000 人、縁故疎開を含めると 18 万人以上におよびました。大量の学童を、わずかな期間で移住させたことがうかがえます。

滋賀県では、北区・東区・南区・浪速区の 49 校、約 12,000 人の学童・引率教員を、133 校が受け入れました。宿舎は学校・寺院・公民館・旅館・民家などを利用し、教員は大阪市から、寮母は大阪市から連れてくる場合と、滋賀県で探す場合があり、炊事・洗濯は地元婦人会が協力しました。

食糧・布団・防寒着などは、大阪市・保護者・滋賀県で分担して調達することになっていましたが、調整がまにあわず、実情に即して対応したことも多かったようです。

19 年度末には 6 年生が大阪市に帰り、20 年度には新 3 年生とともに、1～2 年生も滋賀県へ疎開してきました。疎开学童が増えたのは、3 月 13 日に大空襲が大阪を襲ったためです。

大阪市の学校	疎開先(滋賀県)の学校	現在の学校名(送称・合併後)
菅南国民学校 北区菅原町	海津国民学校 高島郡海津町 西住国民学校 高島郡西住町	マキノ東小学校 高島郡マキノ町海津 マキノ西小学校 高島郡マキノ町西久保
曽根崎国民学校 北区曽根崎	虎姫国民学校 栗東市虎姫町 湯田国民学校 栗東市湯田町	虎姫小学校 栗東市虎姫町 湯田小学校 栗東市湯田町
菅北国民学校 北区菅束町	遠水国民学校 栗東市遠水町 竹生国民学校 栗東市竹生町	遠水小学校 栗東市遠水町 びわ北小学校 栗東市比叡町
北野国民学校 北区南原町	小谷国民学校 栗東市小谷町 田根国民学校 栗東市田根町	小谷小学校 栗東市小谷町 田根小学校 栗東市田根町
滝川国民学校 北区天満橋筋	南富永国民学校 伊香郡高月町高月 北富永国民学校 伊香郡高月町井口 七郷国民学校 伊香郡高月町徳川 古保利国民学校 伊香郡高月町西藤野	南富永小学校 栗東市高月町高月 富永小学校 栗東市高月町井口 七郷小学校 栗東市高月町徳川 古保利小学校 栗東市高月町西藤野
南大江国民学校 東区南農人町	西大路国民学校 彦根郡日野町西大路 日野国民学校 彦根郡日野町大澤	西大路小学校 彦根郡日野町西大路 日野小学校 彦根郡日野町大澤
中大江国民学校 東区糸原町	北五個荘国民学校 神崎郡北五家町村 南五個荘国民学校 神崎郡南五家町村	五個荘小学校 彦根郡北五家町村 五個荘小学校 彦根郡南五家町村
鍾国国民学校 東区和泉町	北比都佐国民学校 彦根郡北比都佐町 南比都佐国民学校 彦根郡南比都佐町	必佐小学校 彦根郡北比都佐町 南比都佐小学校 彦根郡南比都佐町
大宝国民学校 南区大宝町	多賀国民学校 犬上郡多賀町 高富国民学校 犬上郡高富町 西甲良国民学校 犬上郡西甲良町 東甲良国民学校 犬上郡東甲良町	多賀小学校 犬上郡多賀町 高富小学校 彦根市高富町 甲良西小学校 犬上郡西甲良町 甲良東小学校 犬上郡東甲良町
精華国民学校 南区難波新地	西小地国民学校 栗東市西小地町 角井国民学校 彦根郡角井町 東神立国民学校 彦根郡東神立町 豊橋国民学校 彦根郡豊橋町 豊国国民学校 彦根郡豊国町	愛東南小学校 栗東市西小地町 愛東北小学校 彦根郡角井町 湖東第一小学校 彦根郡東神立町 湖東第三小学校 彦根郡豊橋町 愛知川東小学校 彦根郡豊国町
難波国民学校 浪速区新川	老上国民学校 栗次郡老上町	老上小学校 彦根市難波
逢坂国民学校 浪速区逢坂下之町	草津国民学校 栗次郡草津町 志津国民学校 栗次郡志津町 治田国民学校 栗次郡治田町	草津小学校 彦根市草津三丁目 志津小学校 彦根市志津 治田小学校 栗次郡治田町
福荷国民学校 浪速区元町	甲南寺庄国民学校 甲賀郡甲南町深川 甲南南輪国民学校 甲賀郡甲南町少谷 油日国民学校 甲賀郡甲南町上野 大原国民学校 甲賀郡甲南町大久保	甲南第一小学校 甲賀郡甲南町深川 甲南第二小学校 甲賀郡甲南町少谷 油日小学校 甲賀郡甲南町上野 大原小学校 甲賀郡甲南町大久保

展示で紹介した疎開学校



疎開児童関係写真

上段 4 枚：難波国民学校

下段左から：曽根崎国民学校、菅北国民学校、北野国民学校、逢坂国民学校

(公財) 大阪国際平和センター所蔵、山本仁一さん寄贈写真



〈体験談：精華国民学校→豊椋国民学校〉

慈眼寺寮 引率教員のTさん (当時26歳)

【疎開へ】

豊椋国民学校は5年生だけ、女の子2組と男の子2組。それぞれのクラスに40人からおった子が、学童集団疎開と縁故疎開と残留の三手に分かれて、そのうち学童集団疎開は一クラス20人あまりが4クラスに分かれて出たんです。一つの寮に教師一人、たいてい大阪から連れていた寮母一人、作業員の女の方は地元でお願いしました。

【寮の生活】

布団も蚊帳も全部地域の人達が出してくれました。

風呂も最初は民家に貰い風呂でした。ここらは五右衛門風呂で、湯はあぐらをかいて座ったら膝が漬かる程度です。それで、上から藁で編んだ蓋をして、蒸し風呂にしたんです。ビックリしましたなあ。身体は風呂桶で洗うんです、外に洗い場なんてありません。

貰い風呂ですと、冬は湯冷めするし、雪の降る日もある。ほかの寮では学校まで2〜3キロ歩くところもあったんで、生活修正をすることにしました。最初はどの寮も学校へ通学してましたが、寮で学習することにしました。といっても、学習というのはお粗末で、まったく寺子屋でしたわ。それで、風呂も

お寺のを使わせてもらうことにしました。

自主的な活動は、ここらの掃除をさせましたしね。草引きもさせましたし。

いじめということはまったくないです。集団生活の中に溶け込んでくれてました。私が厳重な指導というか、親と離れてるんだから、あんまり厳しくしたらかわいそうやという思いは持ってましたけれども、ただ時代が時代やし、型にはめるといふか、厳しいといふか、そういう指導もしました。

【食糧事情】

食料はすべて配給です。疎開だからといって量が多いとか、副食物が素晴らしいということはないです。滋賀県は米の産地ですから、量は変わらないけれどもいい米を頂いてました。豊椋学校に高等科がありまして、野菜物なんかを作っておりましたから、おこぼれを頂いたりしてましたね。子どもは畑を一切やってません。帳簿に松茸を買った、毎月鯉を買ったとあるのは、特別に買ってたんじゃないかと思えます。

私の耳には届いてないけれども、子どもは親が面会に来てたら不足をいってたと思いますね。腹がへったと、育ち盛りの子どもたちだから。しかし、私はそんなこと弱音を吐くなど、よくいってました。このご時世で贅沢はいうたらいかん、天皇陛下のお役に立つ日本人になるんやと、そのことばかりいいました。かわいそうなことをしたと思いますけど、誰もどうすることもできん、というあきらめがありました。私が特にひどかったとは、子どもは思っていないと思いますんや。

【ホームシック】

子供が帰りたいというのは、当初はあったんです。それで最初のころは食事が余りました。というのは、親の料理と違うから口に合わないということがあるし。それから、親から離れて甘えられへん、男の教師にも甘えられへん、寮母一人が頼りですから、ショボンとしてしても食が進まない、というのもあったと思います。はじめの1カ月は食べる量が少なくて残飯がでました。

【空襲】

この子らが疎開しているうちに大阪は空襲で丸焼けになってます。私自身も寮にいるうちに、八日市

飛行場を低空で襲ってくるのを、子どもも私も目の前で見たしね。爆弾を落としたんやなくて、機銃掃射やね。そういう体験はいっぺんだけでした。

精華の学校は焼け残りしましたが、戦後はよそに貸減るし、教師だけが余っていたので、翌年度は国もとの兵庫県へ帰りました。



精華国民学校に関する展示



大阪市精華国民学校疎開地 現地表

大阪市精華国民学校疎開地 寮舎表



「野良作業」

木津龍尊さん提供

〈体験談：精華国民学校→豊国国民学校〉

信光寺寮 寮長の木津龍尊さん（当時39歳）

【いきさつ】

私の寺には大阪難波の精華国民学校の4年生35名が疎開にきました。男の子です。昭和19年8月から20年3月までです。

突然、村役場の案内で大阪からおこしになって“こういうわけで(寺を寮に)貸してやって下さい。”

いうてきはりました。ほとんどもう命令でございます。1回だけ視察に来られて、いきなり8月31日に子供がきたわけです。そろもうほんとに困りました。

とりあえず寝起きができるようにしてあったんですが、いろんなことは決まってませんでした。子どもが来て、ご飯は学校の食堂で3交代で食べてたらしいんですが、それやと雨でも寮からかよって食べに行かんならん。時間もかかりますし、子どもには不便なんで。めちゃくちゃですねえ、といいながら、しょうがなく私の台所で35人の食事をこしらえて本堂で食べるようになったんです。

【寺の改修】

お風呂もですね、最初は3人ずつ在所のお宅の風呂へ入れてもらったわけです。そうすると、子どもはお宅でおやつをよばれてくる。あっちのお宅ではこんなもんよばれたけど、こっちではこんなやつたといったようなことがあったんです。それはよくないので、私のお風呂へ入れてやってくれと。そんな無理やないか、というんですがね。それで、家のものと35人の子どもが一日交代で入ることになったんです。

便所も縁側と同じ高さになるよう疎開用に作ったし、縁側の欄干なんかも竹でこしらえたんです。子どもが縁側をざあーと走りますやろ。下へ落ちやしないかと心配しましたから。

本堂の北側に棚をこしらえて、そこに布団や道具を置いてもらって。内陣はおいといて、ほかはどうぞ使って下さいと。最初は学校の空いた教室で授業をしたわけですが、それも一月半ほどでやめになって、あとは本堂で授業をされてました。

費用は役場でもっていただいたようですが、全部ではなかったんで、私とこでもやったんです。大阪市から使用料はいただきましたが、その他のものはいただいてません。

【地元との交流】

この地域は家が建てこんでいましてね、袋小路とかあるから、子どもは鬼ごっこなんかして遊んでたようです。村の子どもたちと一緒にやってました。そうすると何かで喧嘩がはじまってね、喧嘩も一つの遊びと思えばよかったんですが、あまりひどくなると、私は知らん顔してぷらーっと外へ出て

いきますとね、村の子どもらは逃げてしまいました。それで喧嘩はおさまりました。

食糧はだいたい足りてたんですけど、何かおぎなわなあかんということで、父兄の方がうどんをこねる機械を持って来られました。業者が使う手回しの機械です。それで、父兄の方がうどん粉をもって来て、作っておられました。私も作りましたが、戦後これをうちにいただいたんですが、長い間村のものみんなが重宝させてもらいました。

【大阪大空襲】

3月13日ですか、大阪大空襲の晩は先生が大阪へ帰って留守やったわけです。空襲警報が私のラジオに入ってきましたから、あっと思っすぐ本堂へ走っていきまして。その時には、子どもらも勘づいて大騒ぎしとったんです。

子どもらには大阪の町の名前がわかりますし、どこそこに（爆弾を）落したということが放送されていましてからね。“家が焼ける”いうて、泣き騒いでました。それで大声で、“みんな静まれ”ていいましてね。“ここでなんぼ騒いでみたところでどうもしょうがない、静かにしなさい”いうて、みんなに防空頭巾かぶせて寝床に入らせました。私、一晚中子どもらのそばに座ってました。

そしたら、B29が頭の上を通って帰っていったから、これでよかろうということで、“みんな寝やい”て。その時分には、もう子どもらは静かにしてました。けど、ほとんど一晩中起きていましたよ。

一人を除いてみな家が焼けました。けど、この豊国地区に来てる子どもらの父兄に死者はありませんでした。それだけは幸いでした。

〈体験談：精華国民学校

→豊国国民学校・西小椋国民学校〉

信光寺寮 疎開学童・地元学童のみなさん

（当時10歳 4～5年生）

疎開学童：Tさん、Rさん、Sさん、Mさん、
鳥居徳三さん

地元学童：久保田庄次さん、Hさん、Kさん、
Zさん

寮 長：木津龍尊さん（当時39歳）

*以下、疎開学童／地元学童・寮長は細字／太字で区別。

【再疎開】

***昭和19年に信光寺へ疎開した精華国民学校4年生は、昭和20年3月末に西小椋村へ再疎開した。**

木津さん：みなさんと一緒に暮らしてたのにね、どういう理由で（西小椋へ）行かれるのか。取扱が悪かったんやろか、と反省までしましてね。本当に淋しかったです。

Rさん：向こうでは寝泊まりが村の集会所でしょう。信光寺みたいにあったかい所じゃないんです。それにノミがたくさんいてね。食べるものも厳しくて。淋しくて辛かったですね。豊国へ帰りたいなあ、という感じがしましたね。

【お腹がへった】

Rさん：僕ら、お百姓さんが干してはるあられ、まだ柔らかいやつを盗んで食べたこと覚えてるわ。

Sさん：そやけど、ここではお菓子は足らんかったけど。

Mさん：ご飯は十分にいただいたと思うな。

Sさん：小椋村の方が、食糧難が進んで厳しかったね。

鳥居さん：ひもじかったもんねえ。

Mさん：みかんは皮ごと食べてたし。河原でスカンボ取って食ったりな。

Sさん：いたどりな。腹減ってるから、皮剥いて一生懸命食べた。

Mさん：いまだに覚えてる。♪スカンボは酸いな、菜種の花は甘い。あっはは

Rさん：あの時はさ、渋柿と甘柿との見分けつかんで、誰やらが食べて、腹がいたいとかなんとか。

Zさん：まあ、当時は腹いっぱいすることが大変やったんや。

Tさん：私なんか、お腹が減ったからいうて、稔ってる麦をとりましてね、手でこすって（殻を取って）ふうーと吹くでしょう。ほしたら中実が残りますわね。それを食べたですよ。えらい固いもんやなあ。噛むとちょっと、汁が出てきて、何ていうか、蛋白ですかね。ところがね、決まって下痢しますね、ああいう固いもんは。それで、お腹が余計減りましたね。

Sさん：小麦を食べるとね、口の中にグルテンが残

るんですね。おもちゃみたいだね。あれがおいしくてね。

久保田さん：小麦やったら食べられるけど、大麦やったらとてもやないが食べられん。

【ホームシック】

Mさん：寝小便は一回か二回やったんとかうかなあ。かっこ悪いから外へ持って行ったことある。だんだん思いだしてきたな。

Tさん：寝小便と下痢ね、これはね、非常に注意すべきことやったんです。寝小便はみんなに笑い物にされますからね、しばらくは辛い。

で、下痢するとね、あんたは下痢してるからいうて、白いご飯は食べさせてもらえなくて、おかゆさんになるんです。そうすると、すごくお腹が減って辛抱できないわけですね。それがまた辛かった。だから下痢やっても、下痢したとはいわない。

Kさん：下痢したとはいわないか。

Tさん：ええ、下痢したとはいわない。寝小便して笑われたこととか、下痢したことを誰にもいえなかったこととか、そういうのが辛かったですね。

Tさん：ところで、あの□□君。

Rさん：ああ、いっぺん裸足で脱走しましてね。

木津さん：朝、ラジオ体操されてた。その時にはいいんですけど、スキねらって行ったように。それで、□□君が見つからん、てなことやって。先生、大あわてで、うちの自転車に乗って愛知川の駅へ走られたんです。愛知川の駅へ行ったら、さっき行ったあの電車に乗ったらいいことがあったんで。それで、すぐ車掌に連絡してもらって、高宮まで行ったんですね。そこで降ろしてもらって、引受けに行かれました。

Zさん：よっぽど帰りたかったんでしょなあ。

Mさん：そら、こちらに来て3日目やったら半分くらいの方が泣いとったよ。

【虫・しもやけ】

久保田さん：あんたたちがこっちへ来られたときにみな、半ズボンはいてね。秋にイナゴつかみやら、薪拾いに行くときにブトにかまれてよ。足や手をひどいもんにかまれて。

Zさん：田舎の人間はね、みな、免疫ができたるさかいに。

鳥居さん：僕はね、田んぼの苗代に虫採りに入った時に、ヒルがくつつくのがどうしても我慢できなかったですね。

Sさん：ヒルなあ。

鳥居さん：今でも蚊に食われるとだめなんだなあ。

Sさん：誰やら、しもやけがひどかったなあ。◇◇やったかな。手が包帯だらけで。

久保田さん：そらそうですやろ。ここで雪が降ったのが思い出に残る、いうてはったぐらいやから、慣れてへん。

Tさん：最初は珍しいからね。冷たさは気にならなかった。しばらくして何もかも、ぼとぼとに濡れてきてね。気づいたら、さあ冷たいというわけやね。あの時、この（本堂の）部屋で暖をとってもらったかどうか覚えてないんですけど、本堂は冷えますからね、冬は。よう我慢しました。

【空襲】

Mさん：八日市まで行かされたときな、（飛行場には）黄色い飛行機が一機おっただけや。それにグラマン（アメリカの艦載爆撃機）が、だーっとおりてきて、バツバツバツと撃たれた。けど、1～2機おったけど警戒警報が鳴ったら、（グラマンは）みな逃げていってしもた。それ、見てたことあるわ。

Zさん：はじめのうちは、大事にとって警戒警報が出ましたやろ。けど、しょっちゅう鳴ったることになって、仕事も何もできませんのでな。そして、今度はいきなり空襲警報や。

Mさん：グラマンは雲の上でエンジン切って滑空してきてな、そしていきなり（爆撃を）やりよる。

Rさん：ふつうは、機銃掃射やけど、いっぺん爆弾おとしたやろ。1トン爆弾かなんか。

Zさん：B29は、滅多にここらには（爆弾を）落さしませんさかいに、よろしいけど。

久保田さん：艦載機が危ないな。

Zさん：艦載機や。日本の近くに航空母艦がおるんやさかいに。

Tさん：小椋へ行ってからはあのグラマンがよう来

て、怖かったですわ。

Zさん：八日市に飛行場はあっても、敵が来たら（日本軍機は）みな隠れて逃げよるんやさかいに。

久保田さん：燃料がなかったからな。

Mさん：あの、（大阪大空襲の）空襲警報の時はみな泣いてましたなあ。和尚さんはここに立ってやった。おれも布団かぶって泣いていたかもわからんなあ。

木津さん：私はもうあの晩は、もうほとんど寝ずに。

Mさん：夢にみるんですけどね。何か炎があがるところ。他の場面かなあ。まさか、見えませんわな、大阪が焼けてるの。

木津さん：あのね、大阪の空襲の時には、外へでなかったから全然知りませんけどね、四日市が焼けたときには、何か炎が見えました。

久保田さん：鈴鹿山の向こうですからね。

Zさん：今もあるけど、昔は海軍の燃料所があそこにあったんや。ほんでに、油が燃えたるんやさかいに。

久保田さん：空襲の時には鈴鹿山が真っ赤になった。

Zさん：山の向こうが真っ赤やったなあ。わしも午前3時か4時頃、夜中に見てた。

Tさん：でもね、我々より10歳ぐらい年上の人は戦争にいつてね、それで命落してますのでね。我々はまだ苦労があっても命落すほどではなかった。

Mさん：だから、あの時代のことを考えな。戦争に負けたんで、逆に僕らは一番いい時代に生まれたと思いますわ。もう、4、5年上の人らでもね。もうちょっと早く生まれてたら、みなもう……。



空襲警報と爆撃機・戦闘機

【警戒警報と空襲警報】

敵の攻撃機がまもなく近づくときには警戒警報（サイレンを鳴らしっぱなしで3分）、敵機が襲撃する危険があったら空襲警報（サイレンを4秒鳴らして8秒休止、これを5回繰り返し）が鳴りました。

【爆撃機と戦闘機】（写真はB29・グラマンF6）

日本を空襲した飛行機には、大型の爆撃機と小型の戦闘機があります。

大型爆撃機は上空の高い所から爆弾・焼夷弾を落とす飛行機で、アメリカのB29は当時最大の爆撃機でした。大阪を空襲したのはこの飛行機です。

小型の戦闘機は、航空母艦（空母）から飛来する飛行機で、超低空で飛行しながら、ロケット弾と機関銃を撃って来ました。体験者は「グラマン」「艦載機」と呼んでいて、これが低空飛行で近づいてくると生きた心地がしなかった、と話しています。

滋賀県の“五右衛門風呂”（桶風呂）

大阪から疎開してきた先生や子どもたちが“五右衛門風呂”と呼んでいるのは、写真のような桶風呂のことと思われます。この風呂は湖東地方を中心に使われ、「ゴエモンブロ」「オケブロ」と呼ばれていました。

底に鉄板をはめ込み、下から火を焚いて湯を沸かししました。内側に板を沈めて鉄板に足が触れないようにして入浴しました。湯は深さ30cmほど溜め、蓋をしてなかに蒸気を満たして身体を温める蒸し風呂で、身体はなかで洗いました。

体験談に語られているように、肩まで湯につかり、湯ぶねの外で身体を洗う方式の温水浴になれた大阪の人たちには、たいそう驚きだったようです。

（写真は旧湖東町で使用されていた桶風呂（東近江市所蔵））

〈体験談：南大江国民学校→日野国民学校〉

観風社寮 疎開寮母の玉八初子さん（当時 18 歳）

【寮の仕事】

役場からの依頼で、保健衛生面を担当する寮母として観風社で働くことになりました。あらかじめ彦根で准看護婦の教育を受けていました。

大阪からは先生3人、寮母2人が来られまして、地元から寮母として私ともう一人いました。私の家はすぐ近くでしたが、観風社に泊まり込んでました。

炊事と洗濯は、地元の国防婦人会のおばさん二人がやってくれはりました。朝はきまってお芋や野菜の入ったおかゆで、夜はいろいろなものを混ぜ合わせた焼き飯などです。シラミがたくさんわきましたから、衣類はお風呂でぐつぐつ煮沸します。そのあと石けんつけて洗濯しました。

私は、子どもに駆虫剤を飲ませたりして、健康にはいろいろ気を使いました。子どもたちを寮の向かいにあるお医者さんへ連れていったり、ちょっと長くかかる子は遠いお医者さんへ連れて行ったり、そんなことしてました。

【学童の生活】

子どもたちは、朝起きて規律正しく点呼して、裸で走らされてましたね、寒い時でも。お風呂は寮制やった日野高等女学校へもらいに行っていました。手ぬぐいさげて、みんな並んでね。

私は毎晩、具合が悪いとか、けがをしたとかいう子供はいないか、診て上げます。そんな時は、私の前に子供がズラッと並ぶんですわ。痛くなくても「ここが痛い」といって来る子どもがいるので、私は「そうなの、そうなの」とメンソレータムとかオキシフルとかを塗って上げたんです。そうすると、

子どもは納得して寝てくれるんですね。両親と離れて淋しかったんやろね。

私の母は子ども好きでしたから、子どもたちは学校の帰りによく母のところへ寄り道してました。それで帰りが遅くなると、先生にとってもひどく叱られました。それでも行き先は絶対にいいません。さすが男の子やなあ、と思いました。何が辛かったかって、子どもたちが先生に叱られることでしたね。

私は子どもたちの中に入って寝るようにしました。それまでは、2階の部屋に泊まっていたのですが。そしたら子どもたち、今晚は僕のことというて、毎晩転々と子どもの中へ入って休みましてね、それでシラミにはなれました。

【地元との交流】

子供は町民の皆さんとは交流はあまりないようでしたな。

その代わり、近くの西本誓寺寮へはみな遊びに行っていました。同じ学校の子どもですからね。それと南比都佐国民学校にも女の子が疎開してまして、姉がいるとかで遊びに行っていました。

【空襲と終戦】

3月の大阪大空襲の時は先生何も言われません、子どもが心配するし。

その空襲で両親とおばあさんが亡くなった子どもさんがありましてね、戦争が終わって子どもたちが大阪へ帰るとき、その子に「もし身寄りがなければ、日野に戻っておいで」と耳打ちしましたけど、帰ってきませんでした。どうしたのか、今でも気になります。

敗戦の詔勅はみなで聞きました。僕ら爆弾で家焼かれてもかまへんけど、戦争に敗けたのがくやしいいうて、みんな大声で泣かれました。子どもたちは、戦争に勝たなと思って、親元を離れてたのをがまんしていたんやもんね。



上・下：観風社 昭和19年9月、

南大江国民学校4年男子疎開児童

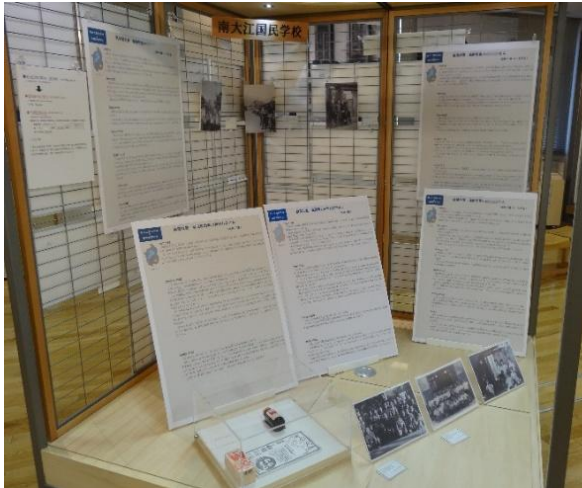
玉八初子さん提供



寮母の玉八初子さんと南大江国民学校疎開児童5年生

昭和20年、日野町にて

玉八初子さん提供



南大江国民学校に関する展示

●南大江国民学校（男子校）〔大阪市東区南農人町〕

※現南大江小学校〔大阪市中央区農人橋〕



◆西大路国民学校〔蒲生郡日野町西大路〕

※現西大路小学校〔蒲生郡日野町西大路〕

◇4寮、寮名省略

◆日野国民学校〔蒲生郡日野町大窪〕

※現日野小学校〔蒲生郡日野町大窪〕

◇観風社寮〔蒲生郡日野町松尾〕※観風社中の能楽堂、現滋賀銀行日野支店

疎開学童：4年生 71人

寮 母

地元協力者：奥村わゑ

◇ほか3寮

南大江国民学校は男子校。道を挟んだ筋向いに女子校の錦郷国民学校がありました。大阪城に近い南大江国民学校の周囲には、多くの軍事施設があり、学校では軍隊色の強い、厳しい指導が行われたようです。

〈体験談：南大江国民学校→日野国民学校〉

観風社寮 疎開学童のKさん

（当時10歳 4～5年生）

【疎開へ】

昭和19年に行ったのは3～5年生です。昭和20年3月の大阪大空襲のあとに1・2年生が来てます。天皇陛下のため、お国のために疎開に行くんやと思ってました。

しかし、小学校4年生の私にとっては、遠足に行くような気持ちでした。けど、日野駅へ着くと、大阪の人間は地理がわかりませんから、ここはどこか、どこへ連れて行かれるのか不安でした。

【寮の生活】

最初は日野高等女学校にしばらくいたあと、日野

国民学校へ行きました。それもわずかな間で、すぐに観風社で勉強するようになりました。

朝は早くから起こされ、パンツ1枚になって乾布摩擦から始まって、「天皇陛下ありがとうございます。皇后陛下ありがとうございます」とご挨拶します。朝食のおかゆは順番に並んでもらうんですが、早く食べると2杯目のあたる時があったんです。そうするとおべの下の方のご飯に近い濃いおかゆが当たったんです。

勉強というのはほとんどなく、畑したり、山へ行って木切ったり、よその田んぼを手伝いに行ったりでした。

【ホームシック】

私の場合、ものすごいホームシックになりました。電車の音が聞こえると日野駅へ行きました。線路をたどって大阪へ帰りたいかったです。それから、親から何か来ていないかと郵便局にも通いました。もうそればかりで、毎日泣きました。

面会には、うちの家族は1回しか来ませんでした。陰でそっと会ったので、何かもらったやろと、つるし上げにあうのがかなわなかったです。

【お腹がへった】

食べ物に関しては、実にいよくなりました。歯磨き粉までなめました。薬局へ行ってワカモトとかエビオスを買ってきて、あれがおいしかったんです。中にはヘビを食べたり、カエルを食べたりとか、そんなことも聞きました。ただね、お正月にはお餅とかお豆さんとか、そういうものもあったように思います。

とにかくお腹が減りました。勉強がないので、よその畑でエンドウ豆を取ってきたり、やぶの笹の新芽を抜いて食べたりね、雑穀やら小麦やらを拾ってきて、ガチガチ噛んで食べまてました。そういうものを顔色変えて取りに行った覚えがあります。

【子どもの社会】

こういう子供のグループにはボスが出てくるんです。そいつに、親の面会でもらったおやつ取り上げられたりね。

また、先生も取り上げるんです、一人だけおやつ持っているのを許すわけにはいかんと。一人おかしいことあったら連帯責任で、全員2列に並んで相互

ビンタですわ。そういう日々でした。学校の規律の厳しさを寮まで引きずってましたね。

【終戦】

8月15日はね、お昼に重大発表があるから集まれいわれました。で、何やろうと思ったら、満州をとられて日本はあかんようになったと。先生は泣いておられたような感じでしたが、別に小学生には、そんなに感動のあるものではありません。

そのあと、子供らはばらばらに帰りました。私の親は終戦後に親戚をたよって膳所へ来ていて、私もそのまま大津へ帰りました。ほかにも大津へ帰ったものが3人いました。大阪には滋賀県の人が多いからね。

なかには引き取り手のない子供もおったようです。



広告「錠わかもと」 昭和19年4月11日の滋賀新聞より

〈体験談：南大江国民学校→日野国民学校〉

観風社寮 疎開学童のFさん
(当時10歳 4～5年生)

【疎開へ】

私たちの学校は、当時としては非常に珍しい男子校でした。戦時教練には特異なものがありました。疎開にしても、見送りは出征みたいなきびきびしたところがあって、寂しさや悲しさはなかったです。遠足みたいに父母に送られて行く気持ちでしたなあ。

日野駅に着くと駅前で盛大な歓迎を受けました。5年生は西大路国民学校、3年生は日野国民学校の西本誓寺寮、我々は観風社寮からは日野高等女学校へ勉強に行きました。国民学校は行っていなくて、地元の子どもさんとは1・2回いっしょに遊んだ程度で

す。

【寮の生活】

女学校へはしばらくのあいだだけで、あとは観風社で勉強しました。正規の時間割りもないです。机をいくつか並べて、例えば黒板の分数計算の答えを出して、一人ずつ先生のところへ言いに行く。そういう程度でした。

寮の寮母さんは3人ほどおられて、食事の世話や洗濯をしていただきました。その中で玉八さんは、しもやけに薬を塗ってもらったり、話し相手になってもらったり。男子校の我々にはお姉さんのようでした。

【家族の面会】

手紙も軍隊式でした。苦勞のことを書くのは検閲があつてできませんでした。

両親の面会は自由で、おやつやいろいろな物を持って来てくれるんですが、全部は自分の手元に渡らないんです。それは皆に分けてやるんです。でも、我々の手に渡らないこともあつて、先生がそれを米や食料に代えていたのかね・・・。

それからね、子供が脱走するという事件があつたんです。道に迷って保護されましたけど。

【お腹がへった】

とにかく食べる物、食べることに異常な執着をもちました。子どもが肩車してもとつてもとどかんような高いところ神棚があるんですが、どういう知恵を使ったのか、そのお供物を取って叱られたものがありました。

また、どういう関係でそうなったのか、奥村さんという米屋があるんです。そのお家へたくさんのおやつをもらいによく行ってたんです。とにかくおやつが欲しい一心でうちへ来ていたな、とあとでいわれました。

イナゴを焼いて食べたりとか、こういう思いだけは、いま思い出しても嫌です。貧乏なら仕方ないけど、そうじゃなかったから。

【子どもの社会】

寮では物がひとつなくなりますと、連帯責任で一列に並んで対向ビンタです。今の感覚からすると想像を絶するような毎日でした。

また、男子特有のボスのな子供がいてね、い

くつかの派閥ができてました。なかには先生のお気に入りが入っていて、我々はスパイされて先生の方へ情報が入っていました。先生の意に添わない生徒は目玉を喰ったものです。

寮母さんや、日野の人々に親切にさせていただいたことが、一番の思い出です。皆が苦しんでいたのに、良い思い出はないです。これからの世代にはこのような思いはさせたくありませんね。

〈体験談：南大江国民学校→日野国民学校〉

西本誓寺寮 疎開学童のIさん
(当時9歳 3~4年生)

【疎開へ】

昭和19年に南大江国民学校の3年生で西本誓寺に疎開しました。

8月31日に279名が疎開したんですが、白バイが先導して華やかに大阪駅まで歩きました。日野駅に着いたら、ラッパ隊の先頭でお寺まで歩いて行ったんです。

勉強は週一回、国民学校と日野高等女学校へ行っただけです。あとは本堂の廊下で勉強をしました、自習みたいな形で。寮には3年生全部で、20~30人ぐらいやっただと思います。

【寮の生活】

朝は本堂の前で点呼して、東の天皇陛下に向かって最敬礼。それから大阪に向かって、お父さんお母さん、おはようございますというて、食事です。昼はおかゆ、朝と夜は混ぜものがないご飯でした。おかずはあんまり覚えてないけど、たぶん一品だけやっただと思いますなあ。そやけど、ご飯はお代わりできません。盛り切り一杯です。量が少ないから、次の食事までの間がちょっとひもじかったです。

風呂は五右衛門風呂で、後からコンクリートの風呂を作ってくれました。出席簿順に入るんです。

【家族の面会】

疎開先では寂しかったですわ。おばあさんが一回、お父さんが一回、母親が一回、兄貴が一回で4回しか来てもらてない。

面会は日帰りですが、なかには泊まる人もいました。泊まる人はたいがいヤミ面です。学校が決めた

日以外に来て、旅館から子供を呼び出すわけ。それをヤミ面会と言うてたんです。怒られはせんけど、差し入れは没収です。

【地元との交流】

地元の子とは一緒に遊んだことがないんですわ。必ず、仲間と団体でおりました、地元の不良グループに対抗するために。苛められたことはないけど、心細かったんやろね。身なりで疎開の子やとわかるんです。

けど、なかには親切な人もおましてね、しもやけで医者にかよった時、知らん家やけど呼ばれたり、お餅を焼いたるものをもらたり、そんなことはようありました。

【お腹がへった】

時間があると、何か食べるもんを犬みたいに捜して歩きました。マムシ、カエル、ヘビまで食べました。都会の子やのに詳しい子がおって、食べ方を教えてくれて。おやつがないから食事のあいだのつなぎやね。お金があると、ワカモトを薬局で買って食べました。あれが美味しかった。

面会で親が干し芋、大豆の煎るたやつ、お餅とか持ってくるでしょ。それを先生に預けて分けてもらうんです。独り占めはできないんです。なかにはこっそり食べてるもんもおった。隠しておきよるんですが、それをまた盗りよるやつもおった。

【子どもの社会】

ガキ大将みたいなから自然に親分子分ができるんです。そやけど、一年続かないんですよ。次の大将が出てきて交代するんです。火鉢にあたってたなら、いきなり風呂敷みたいのをかぶせられて、ポカポカどつかれんねん。いろんなイジメがあっただけど、今のイジメに比べたらカラッとしてた。その当時のイジメはそれで終わってしまうからね。

【大阪大空襲】

6月7日の空襲で家が焼けて、家族は大和高田へ疎開しました。10月に集団疎開が解散した時は、大阪駅までみんな一緒やったけど、僕は兄貴が迎えに来ていて大和高田へ行きました。

疎開先では白いご飯が食べられてよかったんですが、帰ったら麦とかコーリャンが入ったご飯でした。これはなかなか食べられなんだ。



横町にて 昭和20年撮影、疎開児童と先生と寮母
玉八初子さん提供

〈体験談：南大江国民学校→日野国民学校〉

観風社寮 地元協力者の奥村わゑさん（当時34歳）

【寮の仕事】

国防婦人会では疎開の子どもたちのために、私たちが順番にお洗濯の手伝いに行っただけです。会員で班に分かれて順番制で洗濯に何回も行きました。

もう忘れもしませんが、シラミがぎょうさんです。とつとするほどでした。お風呂も十分に入れませんし、シラミがたくさんわきましてね。大きいお釜にお湯わかして、その熱湯かけてね、衣類のシラミの消毒してあげました。熱湯に通してから洗濯をしました。ひどかったです、シラミは。

【地元との交流】

うちの親元は大きな百姓でしたし、(嫁いだ)家が米屋だったんです。それでお米の配給で寮へ行きますでしょう。そうすると、うちの長男が同じくらいの年齢で、子どもが好きだったので、うちへ遊びに来いといってよく連れて来ました。疎開の子どもが来たら何かこしらえて食べてもらいました。自分にも同じぐらいの子どもいましたのでね。

大豆が配給になりましてね。食料の代わりに、大豆を煎ったり、お芋のふかしたのやら、小麦粉にサッカリン（人工甘味料）混ぜてちょっと甘みつけたり、メリケン粉で鮎焼きを焼いたり、おだんごこしらえたりして食べてもらいました。子どもはたいい日曜に5人か7人、多い時は10人ぐらい、同じようなグループでいつも来てくれました。柿があると取

って食べさせたり。

それを楽しみに来てくれると思って、お粗末なものですけどできるだけしました。そのころは本当に食べるものが不自由で、かわいそうで見てられません。川へ遊びに行くと、カエルがいたらカエルをつかんで両足持って引き裂いてよい身をかじってたなんて聞いたら涙がこぼれた、とか人がいうたはるの聞くと、よけいにかわいそうに思えてね。

うちの子も子どもが好きだったので、鬼ごっこして遊んだり、相撲とって遊んだり、裏の畑の方へ走って行ったり、しばらく遊んでました。寮では時間がやかましいので、少し来ては帰りました。だから子どもたちは時間ばかり見てましたわ。

【家族の面会】

それはもう大阪へ帰りたい言うて泣いてましたね、寮母さんは随分困られたでしょう。

親はよく面会に来ておられました。来られると料理屋さんで食事するのを楽しみにしてました。主人といっしょにお米配達してた人がたくさん養鶏していて、50～60羽ぐらいでしたが、それを料理屋さんで分けてもらってみなさんに食べてもらってたんです。それが、親御さんが来られてたときの最高の楽しみだったようです。鶏もなかなか自由になりませんでした。かしわの一きれでも貴重なものでしたから。

面会に来た親御さんもここへ来られました。帰る時に、お礼にね。4～5軒でしたけどね。



日野町にて 昭和19年8月撮影、

南大江国民学校四年男子児童 玉八初子さん提供



疎開児童

玉八初子さん提供

●錦郷国民学校（女子校）〔大阪市東区和泉町〕

※現大江南小学校〔大阪市中央区湊人橋〕



◆北比都佐国民学校〔蒲生郡北比都佐村小御門〕

※現必佐小学校〔蒲生郡日野町小御門〕

◇国民学校寮〔蒲生郡北比都佐村小御門〕

疎開学童：4・5年生女子 103人



南比都佐国民学校〔昭和20年〕へ移動

◇ほか2寮

◆南比都佐国民学校〔蒲生郡南比都佐村深山口〕

※現南比都佐小学校〔蒲生郡日野町深山口〕

◇国民学校寮〔蒲生郡南比都佐村深山口〕

疎開学童：6年生女子 72人（昭和19年）



錦郷国民学校に関する展示

〈体験談：錦郷国民学校→南比都佐国民学校〉

南比都佐国民学校 地元学童のH子さん

（当時10歳 4～5年生）

【いきさつ】

大阪の子どもたちが学童疎開に来られた時は、4年生か5年生やったんじゃないかな。でも、私はあまり覚えてません。疎開しての方々が、同窓会でおみえになったとき、私を見て、面影あるわと言うてくれはったんやけど、私は何にも覚えてませんのやわ。当時、疎開の人たちとお友だちになってたけども。ちょっと悪いような気がしました。

【疎開学童との交流】

学校の中に畳の敷いた裁縫室があって、疎開の人たちはそこに寝泊まりをしてはりました。私は、学校から帰ったら弟の子守りをせんならんし、一緒に遊ぶことはそんなになかったように思います。放課後とか休み時間とかに、学校の玄関でよくコンメ（お手玉）をしましたな。鞠つきやとか。けど、活発なお方だけがこっちに出てきて私らと遊びましたが、おとなしい方はお部屋の中で遊んではりました。私らと喧嘩したということはなかったと思います、教室は違いましたし、大阪から知らん土地に来て友だちの中に入り込むということは、なかなか勇気のいることでしたやろね。

シラミは、地元の子でもわいてた人がありました。疎開の子供だけという事はありませんでした。

食料とかは、まあ、なかったですけども、家で作ってますのでね。麦のご飯やら、さつまいものご飯やら、おかゆさんとか、オジヤとか、混ぜご飯やったねえ。普通の白いご飯というのは食べた記憶がなかったですね。作った米は、田んぼの大きさに応じて、これだけは供出せなならんと、強制的に出されましたさかいに。ひもじいということはなかったですけど、おやつなんかは、なかなか当たりませなんだでな。

豆は、七輪で煎ったおぼえがあります。学校へ行く時におかあさんをお願いして豆煎りさせてもらって、疎開の子に持って行ってあげたら、えろう喜んでくれたのを覚えてます。友達と行こかというて、遊びに行きました。廊下のとこで、おいで、おいで、と手まねきすると来やはって、それで玄関やら運動

場で遊んでたように思います。

開墾山ってあるんですが、山を開墾してさつまいもを植えてな。それで、学校の肥やしを運んだりして、お芋作りをよくさしてもらいましたなあ。そういうことが多かったので、勉強してないやろなあ。

靴はあらしまへん。藁草履です。お母さんが夜なべして作ってくれはって。藁ばっかりやったら痛いさかいにと、布切れの草履を作ってくれはって、それをはいて学校に行っていました。私らも子供ながらに草履をつくってましたな。

学童疎開の子は、服装なんかもずいぶん違います。疎開の人は、やっぱりパリッとした洋服を着てはりましたし、こちらのものは昔そのままみたいな着物にモンペ着たり、ちょっと上流の子は服着てはりましたが。そうですか、学童疎開の子どもたちは、持っている中で一番いい洋服を着てはったんですか。なんか、いつもきれいな服を着て、ちゃんとした身なりしてはって、勉強もようできはるように見えたけど、そうでしたか。

〈体験談：錦郷国民学校

→北比都佐国民学校・南比都佐国民学校

北比都佐・南比都佐寮 疎开学童のN子さん
(当時 10 歳 4～5 年生)

【疎開へ】

出発のときには、遠足に行くような気分でニコニコしてました。駅に着いたら、整列して歓迎式をうけまして、北比都佐国民学校の体育館でまた歓迎式です。それから南比都佐へ行く 6 年生と 3 年生、北比都佐へ行く 4・5 年生というふうに分れました。

明くる年（昭和 20 年）、5 年生になって南比都佐国民学校の方に移りました。こっちの方はずっと大きくて、きれいでした。大広間みたいです。

【寮の生活】

宿舎は国民学校です。和裁室という畳が敷いてある広い和室がありまして、そこへみなが入りました。担任は女の先生でした。寮母さんは大阪から付いてこられた方で、誰かのお母さんだとか。

冬は毎朝に裸になって乾布摩擦をするんです。それから、おと～さん、おか～さん、おはようござい

ます、って挨拶して、天皇陛下にもご挨拶してね。お風呂はグループに別れて近所に貰いに行くんですが、五右衛門風呂なんですよ。その家の方はお豆さんとかをちょこっと紙に包んでくださるんですが、それが嬉しくて、調子に乗ってお昼にも行っておやつをもらってくるんです。そしたら、地元から色んなことをいわれたみたいで、それでは困る、というので学校にお風呂をつくったんです。

【ホームシック】

私は早く帰りたい一心でせつせと仮病を使って、授業を休んでいました。一度えらい芝居をうって、足を折ってやりたいと思って、お友達が帰って来るころに階段から飛び降りたんです。ペタンと倒れて、みながびっくりしてね。当時は病気がひどくなったら帰らされたんで、私も足をけがしたら帰れると思ったんです。あほなこと考えたなあ、と思いますが、ずーっと心にあるのは帰りたいということだけでしたから。

【地元との交流】

学校での勉強は、地元の子らとは別でした。ずっと別で、遊んだりもしないんです。なんだかみな（戦争で）イライラしてましたから、私らに対する敵対心のようなものが地元の人たちにはあったようです。けど、戦争が終わった途端に打ち解けたといいますか、一緒に教室で勉強した記憶があります。戦争は精神的にも何かあるんでしょうね。

【お腹がへった】

ご飯は 1 杯だけ。おかずは何か一品ですわ。少ないですけど、とにかく人より遅く食べたいんです、先に食べてしまうとほかの人のがうらやましくなるから。あるときは、村長さんが狩りで鴨を撃ってこられて、鴨ご飯をよばれたのが最高のご馳走でした。

けど、絶対におなか満腹なんてことはなかったから、いつも飢餓状態でしたね。

【子どもの社会】

雪が降って寒くなると、大きな火鉢を三つくらい置いてもらったんです。クラスにはボス的な女の子がいてね、あんたには（火鉢に）あたらしあげへん、と。けど、親元から何か送って来た時だけ、ちょっとおいで、という感じであたらしてもらったか。

山から二人一組で炭俵とか薪を持って降りるんですが、そのときに、あんた早よう来いな、とかきつくいわれて。いじめでも何でもありませんが、当時はものすごくこたえました。けど、強いいじめはありませんでした。北と南の学校に別れた時でも、日曜日に訪ねて行ってお話をしたり、仲良くしてました。

【大阪大空襲】

真夜中に空襲警報があったんです。ここにも来るかもしれないといわれて、山に避難しまして、山の中からちょうど大阪を見たら、もう真っ赤でした。あれがたぶん3月14日の大空襲だったと思います。私は家族が全員無事でしたので良かったなあ、と思ってます。住んでいた家は6月の空襲でやられて、家なしになってしまいました。



疎開児童集合



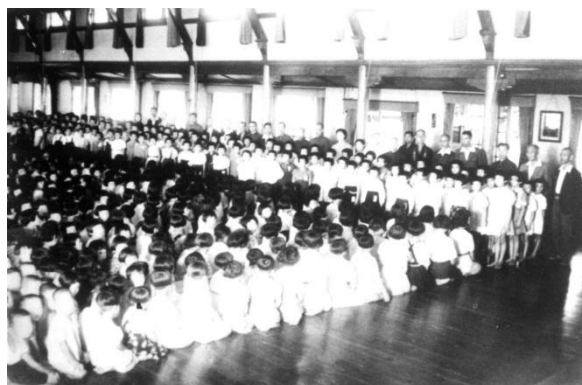
疎開児童集合（学校の和裁室にて）



乾布摩擦



農場



歓迎式（北比都佐国民学校の体育館にて）



学校で飼っていた豚



日野駅で歓迎式



学校で飼っていた羊

以上、写真8枚 N子さん提供

朝礼と乾布摩擦

集団疎開の寮では、朝礼と乾布摩擦で朝がはじまりました。

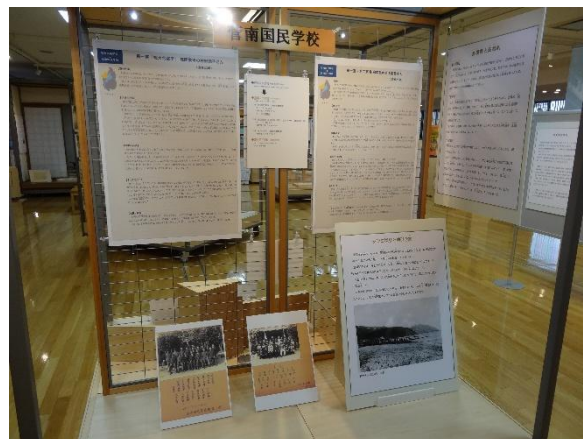
朝礼では、点呼したあと、天皇陛下と両親にあいさつしました。天皇陛下へのあいさつは、皇居がある東京の方に向かって頭を深く下げます。皇后陛下が疎開学童のためにつくられた和歌を歌った、という人もいました。そして、両親に朝のあいさつです。

乾布摩擦は、上半身裸になって（パンツ一丁になって）、乾いた手ぬぐいで身体をこすります。「空襲」コーナーに登場する黒川進さんが、訓練で経験した乾布摩擦は、こんなくあいでした。

「手ぬぐいをねじって細みたいな状態にするんです。それでね、「右手、上！」と言えば右手を上、左手を下にして、「左手上！」と言われたら反対にして、背中をこすります。「首！」といわれたら首をこす。冬は寒うて、服脱いだときは蒸えてるけど、終わったときは、暖かい。ぜんぜん風邪ひかへん」。

錦郷国民学校北比部佐寮で乾布摩擦をしているのようす

写真はN子さん提供



菅南国民学校に関する展示

●菅南国民学校（大阪市北区菅原町）

＊戦後、西人満国民学校に統合。湖西人満小学校（大阪市北区西人満）



◆海津国民学校（高島郡海津村）

＊現マキノ東小学校（高島市マキノ町海津）

◇第一寮（明大合宿所）（高島郡海津村海津）

教 員：由上龍男

疎開学童：5年生男子25人

寮 母：狩野艶子

◇第二寮（願慶寺）（高島郡海津村海津）→同寮（湖西楼）（高島郡海津村海津）

教 員：由上龍男

疎開学童：4・5年生女子21人

◇第七寮（石井田宅）（高島郡海津村海津）

疎開学童：4年生男子20人

◆西庄国民学校（高島郡西庄村）

＊現マキノ西小学校（高島市マキノ町吉久保）

◇4寮、寮名省略

〈体験談：菅南国民学校→海津国民学校〉

第一寮・第二寮 引率教員の由上龍男さん

（当時25歳）

【疎開へ】

海津でバスを降りたら、学校の生徒さんと先生方がずらっと並んで出迎えて下さいました。それから、学校の校庭で受入れ式。日をおいて、お宮さんに行って氏子式。こんなこともやりました。

出発前に生徒の布団を集めたのですが、そこへ大工道具一式と自転車を分解して包んで送りました。自転車は便利が良くてね、隣の西庄村の疎開地へ連絡に使ったし、寮になかった机・戸棚なんかは、持ってきた大工道具で作りました。

【寮の生活】

夏は6時、冬は6時半に起きまして、女の子でも

乾布摩擦をしました。それから湖岸へ出て洗面。その帰りに洗面器にシジミをひろてきて、みそ汁の具にしました。あまるほどありましたから、3・6年生のおる西庄村へ譲ってやったり、その代わりに栗や柿をもらったりね。地引き網を手伝ってコアユをもらったこともあります。

夜は、2 人につづつに湯タンポ。私は大工道具で火鉢を作ってやりました。

空襲の心配は一切ございません。けど、子どもたちは、お父ちゃん、お母ちゃんのところにいつ帰るの、戦争に勝つまで帰れないの、じゃあ、いつ勝つのとそればかりでした。

【食糧事情】

村長さんのご配慮で、海津ではおかゆは朝だけ。あとは麦なしの白いご飯がどんぶりに二杯まで食べられました。それでも、さつまいもの茎を混ぜたりして代用食の苦労もしましたが、よその疎開に比べたら幸せだったと思います。

地域の方も協力的で、菅南の親御さんは感謝でいっぱいでした。菅南の付近は食料品問屋がほとんどです。そういう地域ですから、戦争中でも村へ届けられたようです。

【家族の面会】

面会は大変でした。親御さんがなんとか集めてきた食べ物をドッサリ持っておいで。

交通事情が悪く、親御さんは冬は2泊、夏でも1泊しないと通えません。西庄村の方では警防団詰所の2階を親御さんの宿泊所にしてました。それでその晩だけは、子どもさんと抱きおうて寝なさんです。同窓会を開いた時に、面会の少なかった女の子が大人になってここへ来てね、大声で泣かれたんです。その人が言うには、面会に来てもらた人はあの2階で一緒に寝てはる、けど私のお母さんは面会に来てくれへん。私もあの2階に寝たいわ、と何度も思ったそうです。それで、ようやくお母さんが来た時には詰所で一緒に寝られた、そのことが忘れられんというのです。私は付添の教員でしたけど、子どもの気持ちがよくわかってなかったと、その時はじめて知ったんです。

【高島の雪】

昭和19年の冬は豪雪で、海津国民学校の運動場に

は170センチの雪が積もりました。子どもには嬉しかったんですが、食料に困ったんです。それに、男手は私一人でしたから、屋根の雪下ろしも道の除雪も私一人でやりましたんで、帰ってから病気になりました。しかし、子どもたちにとっては初めての経験です。親御さんがスキーを送ってくれまして、子どもたちはお寺の石段のスロープでスキーを滑って遊んだことを覚えてます。

【高島の雪】

子どもたちにとって、疎開は楽しくはなかったですけど、普通の暮らしはできてたと思います。苦しく辛いという暗いイメージはなかったと思いますね。子どももなついてくれましたし。

私は20年4月で、年度替わりで教員交代をしました。そんなわけで、終戦は大阪で迎えました。

〈体験談：菅南国民学校→海津国民学校〉

第一寮（明大合宿所） 疎開寮母の狩野艶子さん
(当時23歳)

【寮の仕事】

村長さんにお世話いただきまして寮母になりました。そのまえに、大津へ一日だけ講習を受けに行ってきました。そうでないと（寮母になる）許可がおりんのです。

寮母は、子どもたちの仮の母としての講習です。お料理や洗濯は作業員さんの仕事ですから、寮母は母としての愛情を持ってお世話する、ということを目指されたわけです。

【学童の生活】

明大寮は3年生と4年生の男の子の寮で、そこに住み込みでお世話してました。子供たちが住んでいたお部屋はかなり広かったです。それが二間あって、子どもたちはそこに分かれて寝泊まりしていました。先生の部屋は別棟です。そこからみな海津小学校に通われてました。

規則正しい生活をせないかんから、起床、乾布摩擦、朝の体操をして、朝食、それから学校へ行く準備をさせて。ぐずついて起きない子がでないよう、そういう管理ですわね。消灯の時も、号令でピシッと寝床に行かして。なかには寝たない子、はしゃぐ子、しゃべる子がありますやろ。そういう子に、も

うええ加減に寝えや、というんです。そうして必ず2時間ほどしてから見回るんです。一人で起きてなんかしてる子がないかなと。飛び出てる子があると直したり、そんな面倒を見てたんです。3年生ぐらいやと喧嘩するし、差別もするし。しつけるのは大変でしたけど、集団になるとキチッとやるようになりました。

【家族の面会】

親の面会があると、あとで必ずおなかをこわす子が出てくるんです。親はいろいろ持ってきてやるから、子供は食べ過ぎておなかをこわすんです。

なかには親が戦死したり事情のある子がいて、面会がない子もいました。よその子の面会のたびにね、寂しそうな感じがありました。親におやつなんかを持ってくるもらえない、そういうので差別される子を見るのが一番つらいんです。私はうちが店をしていて、その時分は配給制でしたけど、品物が豊富にありましたので、その子らを連れて帰って、私のとこに来て食べれるだけ食べや、っていいました。

【オキタ君のこと】

オキタ君という子がいてね、疎開中にお父さんが南方で戦死されて、お母さんと妹さんが広島に疎開に行って原爆で亡くなられてん。妹さんは他の寮におられて無事でした。その子にね、疎開が終わって大阪へ帰る時に、何やったら私と一緒に暮らさんか、といったこともありました。オキタ君は、いや、それでも僕は帰りますというてね。それで、その子にね、これ家に帰って使いなさいというてね、500円をあげたんです。

この間、同窓会で会ったときに、オキタ君がね、500円くれはったことを僕は一生忘れません、って涙ながらに話してくれました。

【空襲と終戦】

敗戦の玉音放送は子供たちと一緒に聞きました。子どもたちは、ワァ〜これで家に帰れるなあ、お父さんやお母さんのとこへ帰れる、っていうてね。敗戦より、帰れるという嬉しい気持ちだったんでしょうね。

子供たちと別れる時は、そらあもう寂しかったです。寂しくてね、しばらく物忘れをしたようになりました。

シジミ採りと地引き網

晋南国民学校から海津へ疎開学童を引率された由上龍男先生は、琵琶湖のきれいな水と豊かな魚介類のことを印象的に話しておられます。

琵琶湖の水は、洗面から炊事・洗濯、炊飯に利用できるほどきれいでしたし、当時は砂地の浜であればどこでもシジミはたくさん採れたようです。

「地引き網」とは、沖に張った網を浜から引っぱり上げて、網にかかった魚をとる漁法です。

自然の中できれいな水を使い、地元からあまり気がねのなく魚介類をいただくことは、つらい疎開生活の中では貴重な楽しみだったようです。

食糧難と配給制

【食糧難】

戦争が激しくなると、ほとんどの成人男性が戦地へ送られ、残された子どもや女性も勤労動員により兵器工場へ働きに出されたため、働き手のいない農家では収穫が少なくなりました。さらに、国内外の兵隊に優先して食糧を送ったため、国内ではたいへんな食糧難がございました。

【配給制】

少ない食糧の価格を安定させ、国民に公平に行き渡らせるために、食糧の「配給制」が行われました。昭和17年から、米と麦類は購入量を記録した配給通帳をもって購入することになり、米の配給量は一人一日2合7勺（のちに2合1勺）と決められました。

そのほか、衣服類・砂糖・しょうゆ・みそ・マッチなどの生活必需品も、配給切符と交換しないと買えなくなりました。

【ヤミ取引】

配給制をとわずに食糧を売り買ひしたり、あてたり買ったりすることは、厳しく禁止されました。

しかし、実際にはそういう取引は行われていて、集団疎開の体験談で語られている、食糧の「地元協力」や父兄による疎開先への「差し入れ」も、法に触れる場合があったと思われます。こうした取引は「ヤミ」と呼ばれ、違法だけれども助け合いとしては必要である、と考える人も多かったようです。

ちなみに、南大江国民学校の「」さんは、許可のない家族面会を「ヤミ面会」といったと話しておられますが、これは「違法面会」という意味です。



アルバム「集団学童疎開」より（昭和19年9月2日）

由上龍男さん撮影・提供



海津国民学校職員一同 2604年(昭和19年)11月17日
由上龍男さん提供



第二寮児童 昭和19年(1944年)10月15日
由上龍男さん提供



アルバム「集団学童疎開」の閲覧用複製品



バナー左: 歓迎式(錦郷国民学校の児童 北比都佐国民学校
体育館にて 昭和19年9月) N子さん提供
バナー右: 舟遊び(菅南国民学校石井田寮の児童 昭和19年)
由上龍男さん提供
ケース内: 大宝国民学校・堀川国民学校に関する展示



大宝国民学校に関する展示
上段左: お父さんから秋元一三さんへの手紙

上段右：集団疎開したときに坂本正邦さんが書いた絵日記

下段：集団疎開関係書類綴り、集団疎開保護者連絡名簿



「学童疎開児」 最前列、右から2番目が坂本正邦さん

坂本正邦さん提供

●大宝国民学校〔大阪市南区大宝寺町〕

*現南小学校に統合



◆多賀国民学校〔犬上郡多賀町〕

*現多賀小学校〔犬上郡多賀町多賀〕

◇2寮，寮名省略

◆高宮国民学校〔犬上郡高宮町高宮〕

*現高宮小学校〔彦根市高宮町〕

◇2寮，寮名省略

◆西甲良国民学校〔犬上郡西甲良村在土〕

*現甲良西小学校〔犬上郡甲良町在土〕

◇西甲良寮〔犬上郡西甲良村在土〕*西甲良国民学校

疎開学童：4年生男子約60人（秋元一三，坂本正邦）

◆東甲良国民学校〔犬上郡東甲良村横関〕

*現甲良東小学校〔犬上郡甲良町横関〕

◇1寮，寮名省略



「集団疎開のひとこま」

左端に写るのが秋元一三さん。

秋元一三さん提供



「朝の点呼の様子」昭和19年撮影。場所は大宝国民学校の疎開先の西甲良国民学校にて。

秋元一三さん提供



「西甲良国民学校にて」昭和19年撮影、先生の訓示の場面。

写っている児童は、大宝国民学校の児童たち

秋元一三さん提供



「疎開児童の集合写真」 昭和19年9月上旬に撮影
場所：西甲良国民学校正面横 秋元一三さん提供



堀川国民学校に関する展示

上段左：泉慶寮のSさんからYさんへのはがきと手紙
上段右：湖北・学童疎開手記『よろこびのいづみ』と
謄写版刷り
下段左：炊事日誌、下段右：寮務日誌

●堀川国民学校〔大阪市北区東天満二丁目〕

＊現堀川小学校〔大阪市東天満二丁目〕



◆今津国民学校〔高島郡今津町弘川〕

＊現今津東小学校〔高島市今津町弘川〕

◇泉慶寺寮

◇4寮，寮名省略



アルバム『よろこびのいづみ』より

Yさん提供



学童集団疎開写真集「銀杏」より

高月図書館提供



圓行寺寮の寮日誌



「銀杏」と「寮日誌」の
閲覧用複製品

●**滝川国民学校**〔大阪市北区天満橋筋〕

＊現滝川小学校〔大阪市北区天満一丁目〕



◆**南富永国民学校**〔伊香郡高月町高月〕

＊現南富永小学校〔長浜市高月町高月〕

◇3寮，寮名省略

◆**北富永国民学校**〔伊香郡高月町井口〕

＊現富永小学校〔長浜市高月町井口〕

◇2寮，寮名省略

◆**七郷国民学校**〔伊香郡高月町唐川〕

＊現七郷小学校〔長浜市高月町唐川〕

◇3寮，寮名省略

◆**古保利国民学校**〔伊香郡高月町西柳野〕

＊現古保利小学校〔長浜市高月町西柳野〕

◇西柳野寮（圓行寺）

◇5寮，寮名省略



パナー左：縁側で勉強（滝川国民学校円行寺寮 昭和19年）
長浜市立高月図書館提供

パナー右：薪あつめ（稲荷国民学校南杣寮の児童 昭和19年）
吉坂ちゑさん提供



稲荷国民学校に関する展示

上段左から：宮川敬一さんから園木邦子さんへのはがき、
兄勇さんから園木邦子さんへのはがき、
晴章さんから園木邦子さんへの手紙、
吉坂チエさんから邦子さんへのはがき（昭和
19年8月14日消印、昭和19年11月3日付）、
「疎開だより」第2号（昭和19年9月25日）

下段左：家族から疎開していた園木邦子さんに送られた
励ましのはがき

下段右：母から園木邦子さんへの手紙

●**稲荷国民学校**〔大阪市浪速区元町〕

＊空襲で全焼のため廃校し、現元町小学校に統合



◆**甲南寺庄国民学校**〔甲賀郡甲南町深川〕

＊現甲南第一小学校〔甲賀市甲南町深川〕

◇1寮，寮名省略

◆**甲南南杣国民学校**〔甲賀郡甲南町杉谷〕

＊現甲南第二小学校〔甲賀市甲南町杉谷〕

◇報徳寮（更生園）〔甲賀郡甲南町杉谷〕

◇南杣寮（福井宅）〔甲賀郡甲南町杉谷〕

疎開学童：4年生女子27人（園木邦子）

寮 母：吉坂ちゑ

◆**油日国民学校**〔甲賀郡甲賀町上野〕

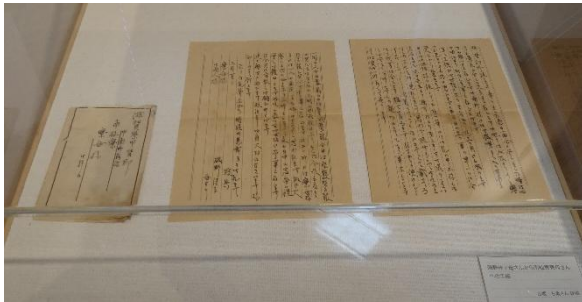
＊現油日小学校〔甲賀市甲賀町上野〕

◇2寮，寮名省略

◆**大原国民学校**〔甲賀郡甲賀町大久保〕

＊現大原小学校〔甲賀市甲賀町大久保〕

◇2寮，寮名省略

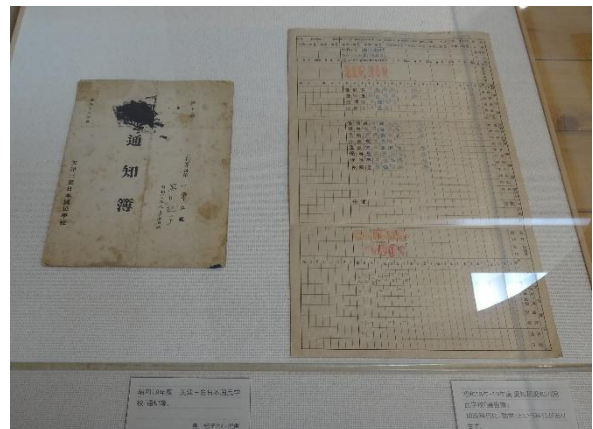


南松寮寮母さんへの手紙



学童疎開のことを書いた武田倫江さんの絵日記

(昭和19年)9月11日



左：昭和18年度 天津三笠日本国民学校「通知簿」

右：昭和18年・19年度愛知県愛知川国民学校「通告簿」

加設科目に「勤労」という科目があります。

お腹をみたすもの

集団疎開した子どもたちは、米などの主食糧は大阪市から配給を受けましたが、野菜や魚などの副食は滋賀県で買入れることになっていました。疎開学童を受け入れた地区にとっても、学童の食糧をまかなうことはたいへんでした。

子どもにとってお腹がすくことは、たいへんつらかったようです。

ここでは、食事・おやつとして食べた、と証言されているものを集めてみました。

さつまいもの茎（芋蔓）・・・おひたし・いため物・混ぜご飯にした。

乾燥卵・・・卵黄を乾燥したもの。戻して野菜と炊き合わせた。（池田喬子さん）

コーリヤン・・・小さな粒の穀物の一種。

煎り豆・かきもち・あられ・干し柿・・・当時は家で作っておやつにしました。

いたどり・・・野草。茎の皮をむいて生で食べた。

生の小麦・・・食べ方は、精華国民学校信光寺寮の丁さんの発言を見てください。

笹の新芽・・・タケノコのうんと細いもの。

ワカモト・エビオス・・・ビール酵母などを固めた青粥薬、栄養補助剤。南大江国民学校のKさんは、おいしかったと証言。

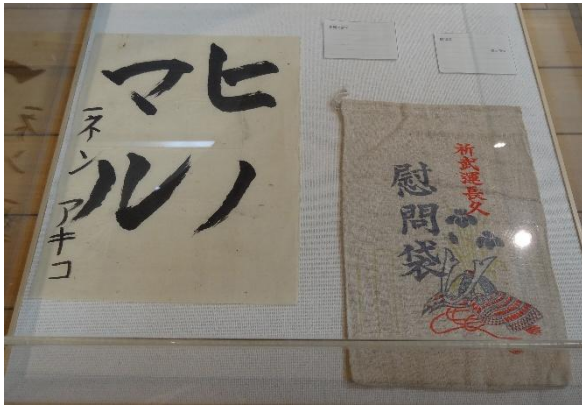
歯磨き粉・・・練り歯磨きは、昔は粉になっていました。

イナゴ・・・稲につくパツタにいた昆虫。太い後ろ足をもぎ取って、煎って食べたといいます。いまでも、佃煮にして食べる地方があります。

ヘビ・マムシ・カエル・・・カエルなら、脚のモモの部分が食べられます・・・。







慰問の習字、慰問袋



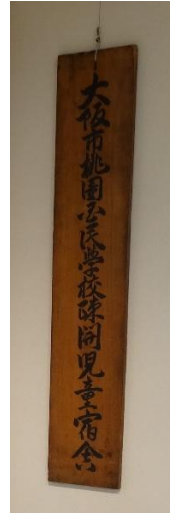
手製の座り机、長机、愛国唱歌集、鉢物標本、教科書「尋常小学校国語読本巻一」、「算数の学習」五学年用下、「尋常小学修身書巻四」、「尋常小学理科書」、算数練習用カード



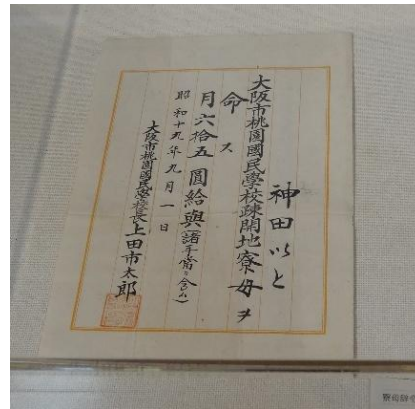
左：『滋賀縣郷土讀本』滋賀県教育会編、昭和9年9月発行
右：墨塗りの教科書



左：児童用学生服



右：寮舎門標「大阪市桃園国民学校疎開児童宿舍」



寮母辞令

〈体験談：中大江国民学校→北五個荘国民学校〉

龍田寮 引率教員のNさん(当時33歳)

【寮の生活】

授業は学校にかよってやりました。ラッパを吹きながら行ったんです。教室は地元の子どもと別です。授業はだいたい午前中ぐらいで、午後は畑を借りてみんなで耕しました。

お風呂はね、ご近所のお宅でつかわせてもらたんですが、入り方が違うんです。村では、腰ぐらいまでお湯はって、戸を閉めて温もるようにする、蒸し風呂ですわな。そやからお湯をかい出したらいかんのですが、子どもらはそれを知らないので、お湯をかい出してしまうんです。

それで、呉羽紡績の大きなお風呂へ入れてもらうようにしたんですが、20分ぐらい歩かなあかん。冬になったらそこまで行けませんから、今度は寮にお風呂を作ってくれはったんです。

ところがね、今度は、燃料が要るんです。子どもは2日にいっぺんでも、交代やかからお風呂は毎日炊かんならん。燃料はどこのお家でも要るからねえ、供出してもらえませんか。それで、山の木を貰って薪にすることにしたんです。そんなことで、寒くなる前に男の先生がゴシゴシ鋸で木を切って、子供たちはそれを担いで持って帰るということにして。荷物を担ついだりしたことのない子ばかりやから、痛い、重たいといいながら、ワイワイいうて手伝ってくれはりました。

【食糧事情】

北五個荘ではあんじょうして頂きました。けども戦争中のことですので、裕福ということはありません。大阪から配給があつて、缶詰とか時々ですけど送って来るんです。それと、神崎郡に農学校がありまして、そこからいろいろくださったりしてね。

それでも、子どもはどんなに食べ物欲しがったか。ひもじいから、男の子なんかしゅっちゅうよその家に忍び込んで、軒に吊つたる柿とかとって食べたようです。よう怒られましたわ。

地元の子どもと相撲大会がありましてね、地元の子らは丸々と肥えてるのに、大阪の子は栄養不足でみな細かったです。

【ホームシック】

逃げて帰る子もありました。遠足に行ったときのこと、小高いところでお弁当を食べたんですけど、そこから車が走ってるのが見えたんです。それに乗ったら帰れると思ったんでしょうね、しばらくして男の子がおらんようになったんです。消灯の時間になってもおらん。みんなで捜し回りました。

女の子は夜になると寂しいいうて泣くんです。一人が泣いたら、皆泣きますやろ、お布団の中でクシュクシュと。それは、辛いやろうと思いました。まあ、ふた月ぐらいいたら、気分も落ち着いてきましたね。親元からお手紙や小包が来るのが一番楽しみやったようです。

【雪としもやけ】

一番辛かったのは、ノミとシラミと寒さでした。

はじめて雪が降った時は、子どもがものすごく喜んでねえ、そこらじゅう走り回って。大阪では雪が積もることはめったになかったから。そしたら、地

元のお百姓さんにエライ叱られました、畑を踏み荒らしたて。雪で埋もれてたら畑やてわかりませんもんねえ。

それ以来ずうと雪でしょ。持って行ったゴム靴がもたへんのです、質が悪くて。破れてしめても、代わりがありません。それで、足にしもやけができて、グジュグジュになって。栄養不足ですから手も足も崩れる子ができました。

【終戦】

玉音放送は子どもたちと一緒に聞きました。それで、寮長さんが、戦争は済んだらしいと。子どもはびっくりしてました、子どもたちも私も勝つと信じてましたからねえ。複雑な気持ちでしたなあ。

子どもたちは10月の終わり頃に一緒に帰りました。けどそれまでに、親御さんが連れに見えるでしよ。だから、人数がうんと減ってました。

●中大江国民学校〔大阪市東区系屋町〕

※現中大江小学校〔大阪市中央区系屋町〕



◆北五個荘国民学校〔神崎郡北五個荘村龍田〕

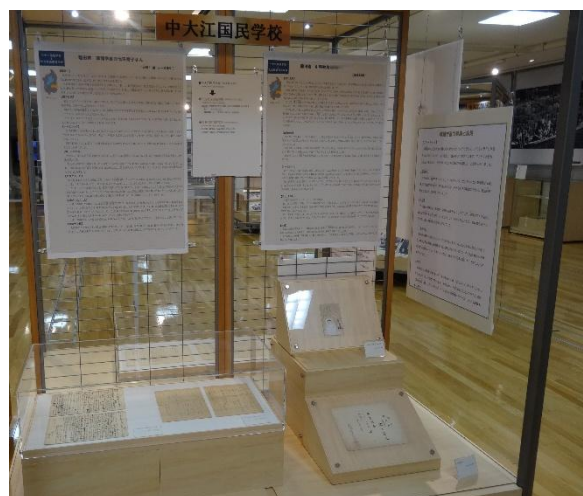
※現五個荘小学校〔東近江市五個荘竜田〕

◇龍田寮〔神崎郡南五個荘村龍田〕※私立淡海高等学校寄宿舎
疎開学童：4・5年生男女111名（池田喬子）

◆南五個荘国民学校〔神崎郡南五個荘村〕

※現五個荘小学校〔東近江市五個荘竜田〕

◇川並寮（福應寺）〔神崎郡南五個荘村川並〕
◇金堂寮（弘誓寺）〔神崎郡南五個荘村金堂〕



中大江国民学校に関する展示

〈体験談：中大江国民学校→北五個荘国民学校〉

龍田寮 疎開学童の池田喬子さん

(当時11歳 5～6年生)

【疎開へ】

私が通っていた東区の中大江小学校は、五個荘の「黄金村」っていわれた龍田に疎開したんです。一番いいところに疎開させてもらったけど、食べ物には不自由しました。

学童疎開に出発する時は意気揚々と行きました。一番いいお洋服を着て、旗で見送ってもらって、英雄気取りでした。駅に着いた時もね、旗振って手を叩いて迎えてくれはるし、ご馳走はダーッと並んでるし、ほんまに楽しかったです。ところが、その晩から淋しくて泣き出す子がありました。

【寮の生活】

寮には4年生と5年生が一緒にいました。男の子は2階で、私たちは1階。兵隊さんと一緒に、学校へ行く時も、寝る時も、ご飯の時も合図はラッパです。

村の人が土地を提供してくださってね、開墾してお芋やらを植える場所をこしらえるんです。作業はほとんど毎日してたから、授業はほとんどなかったんです。

そやけど、楽しいこともあったよ。スズムシとかホタルをね、村の人がたくさん採って来て寮に届けてくれはってん。そなんして、みんな慰めてくれはったんです。

【ホームシック】

毎日手紙ばかり書いてね、それしかやることがなかったん。そやけど、泣き言は書いたらあかん、頑張ってることだけ書いてるわけね。さつまいもとか一杯食べたようなことを書いてたわけ。先生の検閲もあったし、親を心配させまいとして。

農作業をしててね、愛知川の橋を汽車が走るのが見えると、あれに乗ったら大阪へ帰れるなあ、と思たら泣けてきたことがありました。

【地元との交流】

地元の生徒さんたちが交流会のようなものをしてね、慰問してくれはりました。先生の指導で音楽会を開いたり、歌を歌ったり。

地元の子供たちと仲良くなった人はお正月遊びに

おいでといわれて、お餅焼いて食べさせてくれはった。それにね、立派なお布団や蚊帳を貸してくれはりましたよ。蚤でズタズタにしてもたけど。受け入れる側も相当犠牲を払ってくれはりました。

【お腹がへった】

朝と昼はおかゆさんで晩はご飯。おかずは芋蔓の炊いたんとか、乾燥卵を大根とかと炊くわけ。面会の時はね、いつもよりたくさん盛って出しはるの、親に見せるために。いつもはもっと少ないのよ、と親にいうのよ。

そやけど、先生らも地元の人も、疎開の人にとって、食べ物を持って来てくれはるんですけどね、子供がたくさんいるから追いつかへん。とにかく、ありとあらゆるもんを食べた。もうね、出発の時に作ってもろたもんぺがゴソゴソ。目はトロンとして、ほほがやせて痩せて目ばかりギョロっとして、疎開の子ってすぐわかんねん。

【お姉ちゃんのこと】

一緒に疎開したお姉ちゃんは金堂寮（弘誓寺）でした。時々面会に行かせてもろてね、甘えてたねえ。姉は卒業するんで2月に帰ったんです。離れるのが辛くてね。その日は大雪で寒い日やったのね。ゴム靴を貸してもらはずが別の子に横取りされてしまったんです。それで、見送りに間に合わなかったんですわ。汽車が出て行く時に”姉ちゃん”と呼んだけど、聞こえませんわね。泣きじゃくって帰って来ました。

大阪は戦場やから会えるかどうか分かれへんよ、と先生にいわれてたんです。もう一生会えないと思ってたから。

【大阪大空襲】

大空襲のことはラジオの放送で聞いてました。6月7日のね、家が焼けた日はね、私の父が面会に来る日だったの。あとで手紙が来て、みなは元気やと書いてあったけど、帰れると思ってた家が焼けたの聞いてショックでした。

疎開学童の健康と病気

【ノミ・シラミ】

疎開中の子どもたちを最も悩ませたのは、シラミでした。ノミもシラミも体長数mmの小さな虫で、人に寄生し、血を吸って生きています。これらにかまれるととてもかゆく、かきむしったために傷口が化膿した、と話す人もいました。

【駆虫剤】

人の体内に寄生するギョウチュウ・カイチュウ・サナダムシなどを駆除する薬。南大江国民学校の養母、玉八初子さんは、子どもたちの健康のために、駆虫剤を飲ませるなど、気を使っていました。

【蚊帳】

目の細かい布のような網を、部屋の四隅からつり下ろして、寝床を広くおおい、蚊などが侵入するのを防いでいました。ノミやシラミとともに、昔は蚊も多かったので、夏には蚊帳は欠かせませんでした。

【しもやけ】

滋賀県の寒さに慣れていなかった子どもたちは、冬はしもやけに悩まされました。中大江国民学校の先生は、栄養が足りないのが、子どもたちのしもやけはすぐに崩れてくる、と話しています。骨が見えるまで崩れた、と話した人もおられました。

【病気】

体験談では、風邪・下痢・めいぼ（ものもらい）・ぼうこう炎・ジフテリアにかかった子どもがいた、と話されています。そのほか、今ではほとんどかからない病気である赤痢・腸チフス・マラリア・デング熱・猩紅熱にかかった、という記録もあります。



中大江国民学校に関する展示

右上：お父さんから池田喬子さんへのハガキ

右下：学業精励賞状

中央：お父さんから池田喬子さんへの手紙

左：お姉さんから池田喬子さんへの手紙



大阪空襲で焼け残った湯呑（昭和20年6月7日罹災）



中大江国民学校に関する展示

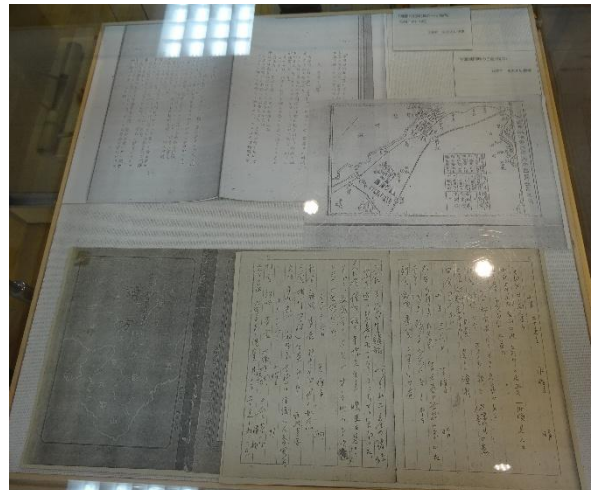
上段右：お母さんから池田喬子さんへの手紙

上段左：水差し・万年筆

下段右：糸巻き・はさみ・中大江国民学校徽章

下段中央：茶碗 下段左手前：おはじき

下段左奥：「大東亜」貿易ゲーム盤



上：『疎開の記録（其の一）』（複写）昭和19年10月

下：学童疎開時の日記（複写）



上段：食器皿、手製の一升ます

下段：子ども茶碗、疎開児童の食事の復元（食品サンプル）



紙芝居「防諜紙芝居 しゃべるな聞くな」



イナゴ捕り袋、竹製ぼっくり、竹製ひばり笛、竹製紙鉄砲、竹とんぼ、竹製機関銃、竹製弾き鉄砲（いずれも復元品）



翼賛カルタ、貯金箱



左：学童用衣料品購入票

右：おもちゃの剣・機関銃

第4章 建物疎開

建物疎開は役所、通信・交通などの重要施設が火災に遭うのを防ぐため、空襲を受けるまえに周囲の民家を強制的に取り壊してしまう措置です。

滋賀県内では空襲被害がでた直後に急速に計画がすすめられ、昭和20年7月に大津・彦根・長浜など6市町で建物疎開が実施されました。



滋賀県の建物疎開

空襲が激しくなった戦争末期には、滋賀県でも空襲が予想される地域の役所・病院・交通通信施設・軍需工場の周囲で、建物疎開が行われました。建物疎開はこうした施設に火災がおよぶのを防ぐため、周囲の民家などを取り壊すもので、7月5～18日に6市町17か所に対して第一次告示が行われました。

告示されると対象建物に貼り紙され、5日以内に取壊されるので、それまでに居住者は家財道具を運び出して立ち退かなくてはなりません。8月には第二次疎開が計画され、終戦直前に貼り紙されましたが、このときは自主的に取り壊しをはじめた家と、終戦により取り壊しをのがれた家に分かれたようです。

《第一次建物疎開が告示された場所》

大津市

県庁付近、日赤病院付近、市役所・滋賀銀行付近、
大津駅付近、大津警察署付近、
膳所電話中継所付近、栗津神武晴嵐製造所付近、
大津電話交換局付近

長浜市

長浜郵便局電話分室付近

彦根市

滋賀銀行彦根支店付近、彦根電話中継所付近、
彦根警察署付近、彦根印刷工場付近、
神武長曾根工場付近

米原町（現米原市）

米原駅付近

草津町（現草津市）

太田合名会社製油所付近

八日市町（現東近江市）

八日市郵便局付近

（滋賀県所蔵「防空法に依り地区を指定 関係図面縦覧に供す」より）

建物疎開の体験談（大津市）

【S子さん】

終戦の2～3日前に大津警察署裏の数軒が取り壊された。終戦の日には、先に取り壊された家々の向かい側の家々が、大八車に家財を積んで引っ越し準備をしていて、取り壊しにそなえていた。そこへ玉音放送が聞こえてきたので、引っ越し準備をしていた人は「へえ、戦争終わったんか、この荷物どないしょう」といっていた。ほんの数日違いで取り壊された人もいれば、免れた人もいた。

建物疎開では、私たちは各戸から一人ずつ、後始末に行かないといけなかった。警防団の人々がいばりちらしながら瓦を三枚ずつ運べと指図していたけど、自分は監督しているだけ。瓦は重くて、辛い仕事だった。

【Iさん】

建物の強制疎開を見ていると、まず柱の根本を切り、棟を縄でみんなまで引っ張って壊していた。こうすると瓦は崩れずに倒れた。日赤病院の隣では大津別院の大きな建物や、市役所（現在のNTT）のまわりの立派な家が、みな取り壊わされた。

【Mさん親子】

昭和20年8月に、膳所に残していた自宅を強制疎開するとの知らせを台湾で受け取った。まさか全部なくなっているとは思わなかった。隣の膳所電話中継所の周囲にあるから、ということで家を取り壊されたという。

大津に着いてみると、自宅はすっかり壊されてゴミの山になり、井戸までゴミに埋もれていた。井戸のゴミをかき出すのが大変だった。5つの蔵が残っていて、4つの蔵は破られてなかには何も残っていなかった。庭の植木は薪にされ、古い庭石や灯籠なども盗まれていた。

補償金の9千円を受け取りに大阪へ夫が取りに行くと、期限が切れているからだめだといわれたが、なんとか交渉して9千円を払ってもらった。

夫は器用な人だったので、無事だった蔵に窓をつけて住んだ。畳のない蔵の中でお産をすることになった。



上：国土地理院ホームページの空中写真を滋賀県所蔵「防空法に依り地区を指定 関係図面縦覧に供す」により加工して作成

下2枚：滋賀県所蔵「防空法に依り地区を指定 関係図面縦覧に供す」より

空中写真で見る建物疎開の痕跡

(日赤病院、大津郵便局、大津市役所・勸業銀行・滋賀銀行)



昭和 21 年アメリカ軍撮影

*大津警察署は現在と同じ場所。現在では警察署の北側にある湖岸道路・大津パルク・びわ湖ホールなどが立地する場所は、昭和 30 年代以降の埋立地です。

滋賀県立歴史博物館蔵 航空写真（昭和 21 年）

空中写真で見る建物疎開の痕跡

(彦根警察署、米原駅)



昭和 21 ～ 22 年アメリカ軍撮影

滋賀県立歴史博物館蔵 航空写真（昭和 21 ～ 22 年）

上下とも、国土地理院ホームページの空中写真を滋賀県所蔵「防空法に依り地区を指定 関係図面閲覧に供す」により加工して作成

建物疎開の体験談（彦根市）

【S子さん】

銀座街の滋賀銀行彦根支店周辺の強制疎開に遭った。主人は大阪で働いていたが、戦時中は実家の彦根に戻り文房具店をしていた。

お国のためやといわれたので、いわれたとおりにするほかなかったが、商売の方は売物がなくてできなくなっていた。「家の中の物を全部運び出すように」といわれ、八日市の親戚の家へ運び出したが、家を壊すまえに戦争が終わってしまった。

川原町通りは狭かったが、戦後広くなった。



第5章 空襲

アメリカ軍はサイパン島の航空基地から多数の大型爆撃機（B-29）を発進し、昭和 20 年 3 月中旬には東京・名古屋・大阪などの大都市を焼夷弾で爆撃しました。一晩で一画が焼け野原となり、数百～十万人以上の方が死亡するという激しい空襲が、何度も繰り返されました。

6 月になると、本土に接近したアメリカ軍の空母から発進した戦闘機が日本各地を襲撃し、爆弾と機銃掃射で多くの命を奪いました。滋賀県もこの時期に空襲を受けています。



左から順に：御津国民学校より北西方、東北方、南～南東方（昭和 20 年 3 月 14 日大空襲直後）

いずれも（公財）大阪国際平和センター提供



パナール写真：御津国民学校（現中央区心斎橋1丁目付近）
より南東方 ビルの後ろは御堂筋（昭和20年3月14日
の大空襲直後） （公財）大阪国際平和センター提供



パナール写真：御津国民学校（現中央区心斎橋1丁目付近）
より南方 御堂筋の向こうは難波高島屋（昭和20年
3月14日の大空襲直後） （公財）大阪国際平和センター提供

空襲

昭和20年3月13日深夜から14日未明にかけて、274機のB29が大阪市内を空襲しました。その被災地は、滋賀県に疎開してきた学童の学区と重なります。多くの学校が3月14日に卒業式を予定していたので、その前に帰阪していた6年生は、この空襲に遭いました。

6月1日と7日の空襲でも大きな被害がでています。これらの空襲で、大阪市はほとんど全域が焼け野原となり、1万人以上の一般市民が死亡したといわれます。多くの疎开学童が家を失い、家族を失った子どももいました。確かなあてもなく滋賀県へ避難してきた被災家族もいました。

大阪をはじめ、東京・名古屋などを襲ったのは、大型爆撃機B29が投下した大量の焼夷弾です。焼夷弾は内部に発火しやすい薬剤をつめた六角柱の爆弾で、これを38本束ねたものが1つの親爆弾になっており、空中で分散して広い範囲を一気に燃やしてしまいます。大阪大空襲では、この親爆弾が雨のように投下されました。

滋賀県を襲った空襲は7～8月に集中しています。小型の艦載戦闘機が、ロケット弾と機関銃で軍事拠点や工場を襲撃しました。アメリカの航空母艦は日本近海まで近づいていたのです。

日本軍部は国民すべてを兵士にして、アメリカ軍の本土上陸を迎え撃つ覚悟をかためます。日本本土は戦場となっていました。

5月の空襲

彦根市旭森国民学校付近〔昭和20年5月14日〕

名古屋を空襲するB29の大編隊が滋賀県上空を通過したとき、どういう理由からか、大津市田上、野洲市などの水田へ焼夷弾を投下しました。この編隊には日本機1機が攻撃をしかけましたが、撃墜されました。このようすを、旭森国民学校の児童であった高居豊三さん（当時12歳）たちが下校途中に見ていたところ、機関銃の破片があたり5人が重傷を負いました。

その時のことを高居さんは、「目の前の道路で真っ赤な火の玉が2個弾けるのを見たのと同時に、凄惨な音を聞き、両足に「熱い!」という鋭い刺激を感じた」と話しています。両足に銃弾の破片が突き刺さり、血まみれになったそうです。おそらく日本機が撃った流れ弾が地面にあたってはじけたようで、高居さんの身体には体験をお聞きした当時も破片の一部が残っていました。

彦根市稲枝の空襲〔昭和20年5月17日〕

3月の東京・名古屋・大阪・神戸の大空襲のあと、

アメリカ軍機は毎日のように飛来し、琵琶湖の上空を通過していました。

5月17日の夜も空襲警報が鳴りました。彦根市田原（当時愛知郡稲村）にいた小林次郎さんは、11時ごろに数発の爆発音を聞きました。窓から外を見ると、田んぼが火の海になっているのが見えました。焼夷弾が落ちたようでした。翌朝、田んぼに散った焼夷弾を集めると900個近く集まりましたが、村を外れて着弾したため、さいわい死傷者はありませんでした。

当時、落下傘ベルトを作っていた稲枝の高田工場をねらった空襲だと語られましたが、名古屋を目指して飛来したB29大編隊が稲枝を標的にした理由はよくわかりません。

田原では、その後も耕起中に残った焼夷弾が掘り出されました。また、空襲被害がなかったことに感謝して、地元神社ではいまでも5月に爆弾祭を行っています。

大津市東洋レーヨン滋賀工場の空襲

〔昭和20年7月24日〕

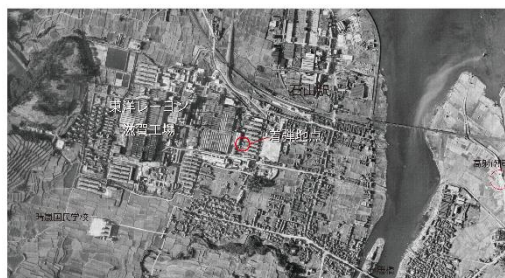
7月24日の朝8時前、1機のB29が南西から侵入し、東洋レーヨン滋賀工場に爆弾1発を投下しました。投下されたのは長崎型原子爆弾を模した模擬原爆（バンプキン爆弾）で、原子爆弾の投下訓練として日本に落とされた50発ほどの一つであることが判っています。模擬原爆とはいえ、全重量5トン近くもある巨大爆弾でした。爆弾は工場正門近くの鉄道引込線の末端のプラットホームに着弾し、16名の死者、104名負傷者が出たとされています。

「空でピカッと光るものがあった、何か落ちたかなと思ったら、ババーと空気が振動をさせる音がしましてね、そしてドーンと音がしたんですね」（Mさん）

「防空壕に入ったらドカーンという音が聞こえて、すぐに上から砂が降ってきたんです。外に出てみたら、血だらけの人たちが半狂乱ですわ」（池田宏さん）

「引込線のレールが船のように曲がって、倉庫の壁には爆風で吹き飛ばされた男の人3人が横のようにになってめり込んでいました」（Kさん）

激しい爆風で1キロメートル離れた晴嵐国民学校で窓ガラスが割れ、爆弾の破片は2キロメートル離れた民家まで飛びました。



昭和23年アメリカ軍撮影

工場内の着弾地点には建物がない。

写真は国土地理院ホームページより

彦根市城南国民学校の空襲

〔昭和20年6月26日〕

昭和20年6月26日午前9時40分ごろ、B29爆撃機の編隊が上空を通過し、うち1機が城南国民学校付近に爆弾10余発を投下しました。平田山にいた目撃者によると、八日市飛行場を飛び立った日本機1機の攻撃をかわすために旋回した爆撃機が爆弾を落としたようです。

救生として救護をとっていた水野道子さんは、低いエンジン音から爆撃機が低空で接近するのを察知し、爆撃があると直感して同僚に防空壕へ避難するよう呼びかけました。そして、防空壕へ逃げ込んだ直後にズシンと爆発する音を聞くと同時に、猛烈な土煙が舞い上がりました。

爆風で校舎の窓ガラスが割れ屋根瓦が飛び、講堂や校舎の壁には爆弾の破片が無数に突き刺さっていました。数日前に完成した防空壕のおかげで、学校関係者には負傷者が出ませんでした。しかし、麦刈りで畑に出ていた人々には、10人の死者、10人の負傷者が出ました。爆風と爆弾の破片で遺体はひどく傷み、片腕を失う重傷を負った方もおられたといいます。

学校正面玄関のロタンの像の礎石には、いまでも爆弾の破片による傷跡が残っています。



昭和21年3月の城南国民学校卒業記念写真。
爆風で割れた窓ガラスがそのままになっています。



爆弾の傷跡は○印の裏に残っています。

左写真は水野道子さん提供

八日市飛行場周辺の空襲

〔昭和20年7月24・25・30日〕

大規模な軍事施設である陸軍八日市飛行場は何度も空襲を受ましたが、記録がないため日時や被害はよくわかっていません。これには多くの民間人がまきこまれました。

【7月24日 御園にて】

午前7時前、義勇消防隊員として集合場所に駆けつけたところへ、隣の家にグラマンがロケット弾を撃ち込みました。気がついて、立とうとした足がグニャッと曲がってしまい、手も曲がって骨が出てきました。血がゴイゴイ出ていたけれど、痛くも痒くもない。妙に気だけはしっかりしてました。（Mさん）

防空壕へ入ろうとしたその時、ロケット弾がすぐそばに落ちました。気がついたら陸軍病院の前まで運ばれてました。弟は、爆弾の破片を横腹に受け、胸から正門に飛び出す重傷でした。痛みもなにも感じないらしく、やがて弟は母と私の手を握ったまま息を引き取りました。気がついたら私の目の前は真っ白で目が見えなくなりました。（I子さん）

【7月25日 空中戦】

八日市飛行場上空で、アメリカ軍機の飛行機がけて日本軍機が体当たりしたんです。操縦士は直前に機体から飛び出して、落下傘が開きました。米軍機はそれめがけて機銃掃射したんで、操縦士は腰を「く」の字に曲げて落しました。小原人尉は、はじめから当たるつもりだったと思います。（Kさん）

【7月30日 石谷にて】

私の子ども、久司（9歳）と忠男（4歳）はラジオ体操から帰ってくるこでした。戦闘機が急降下してきて、早よう入り」と叫んで2人が家に入ったとたん、バリバリッと音がして2人が引っこ返りました。血みどろで倒れていた忠男は即死。久司は匠者へ運んだけど、途中で息が絶えたとか。2人の子どもが死んでもしてから、農作業してても、いつのまにかボウウとしてたことが何度もありました。

（Y子さん）



小原人尉（死後少佐）の墓碑
（京浜市南中區）



石谷の角田家

空襲による銃撃を受けた民家

昭和20（1945）年7月30日、守山駅の列車を狙って、アメリカ軍の戦闘機が機関銃による攻撃をしました。守山駅のすぐ近くにあったY子さんのお家は、その流れ弾を何発も受けました。瓦屋根を打ち抜いた銃弾は、天井や壁、床板も貫通しました。この空襲で列車に乗っていた人や駅周辺に住んでいた人たちの中には、怪我をした人や亡くなった人もいました。幸い、Yさんは外出していたので無事でしたが、仮の救護所となり怪我をした人たちがたくさん運び込まれたそうです。

Yさんのお家には、銃撃の弾の跡がずっと残っていましたが、平成25（2013）年に建て替えの際に、所有者のご協力を得て、その一部を切り取り、保存することができました。①垂れ壁、②天井、③床板を展示しています。



①垂れ壁、②天井、③床板

守山駅の空襲

〔昭和20年7月30日〕

7月30日の午後4時ごろ、戦闘機が守山駅上り線を発車した直後の列車を襲撃しました。直前に大津市の海軍飛行場を空襲した7機の中の4機で、何度か旋回して機関銃射をくりかえし、多くの死傷者が出ました。連合国軍にとって、兵士や物資を輸送する鉄道は主要な破壊目標でした。

「守山駅を出て20mほど歩いたら空襲。グラマンが「際だてのちょっと高いくらい」のところをダガーって、それが機関銃でバリバリってやるから、雷がいつべんにガンと落ちた音や。」（小島秀治郎さん）

「飛行機が旋回してきて、弾がビューンと目の前に私にあたるように飛んでくるねん。音がウーンってものすごいんや。生きた心地なかったわ」（山口とし子さん）

「戦闘機が超低空で飛んできて、パイロットの顔までハッキリ見えました。『駅前通りをたくさん負傷者がひとに肩を借りて歩いてました。わが家にも5人寝かせました。近所の医院では何度も悲鳴が聞こえて、怖くて飛んで逃げました』『学校へ行っても何があったかということではできません。何かいうと憲兵隊に捕まるから』（N子さん）

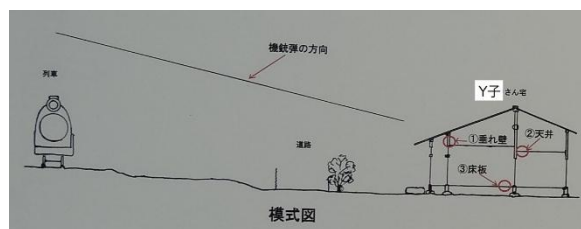
「あとから聞いた話では、手術する道具がなかったんで、弾が貫通した足を切断するのに鋸をつかったそうです。むしろを被せた遺体もありました」（Uさん）

「線路に近いわが家はたいへんなありさまでした。壁土が落ち、瓦やガラスの破片が部屋に散らばって、天井にも壁にも機関銃の穴があき、柱に銃弾が突き刺さってました」（Y子さん）




線路沿いの民家の弾痕

被弾して欠けた六地蔵



（令和8年7月編集）

第12回企画展示「空襲と疎開」(会期:平成27年10月3日～12月20日) 展示資料一覧				
第1章 15年にわたる戦争				
No.	資料名	点数	資料説明	提供者名
1	海軍水兵用上衣	1	冬用	個人提供
2	海軍水兵用軍袴	1	冬用	個人提供
3	中着襟	1		個人提供
4	衣囊	1		個人提供
5	双眼鏡	1		森本五郎さん提供
6	海軍ゲートル	2		個人提供
7	海軍第一種略帽	1	艦内帽	個人提供
8	海軍第二種略帽	1		個人提供
9	海軍陸戦隊略帽	1		個人提供
10	昭和十九年度海軍志願兵の栞	1	海軍省	個人提供
11	海軍落下傘カバン	1	九七式落下傘用	個人提供
12	軍艦旗	1		個人提供
13	海軍で使われていた食器	1		個人提供
14	海軍特別糧食の箱	1		個人提供
15	海軍の履歴票	1		個人提供
16	封筒	1		個人提供
17	充員召集に関する件通知	1	昭和17年4月15日	個人提供
18	充員召集令状	1		個人提供
第2章 本土にせまる連合国軍				
19	防空監視哨監視員腕章	1		飯田繁雄さん提供
20	表彰状	1		個人提供
21	灯火管制防空笠	1		個人提供
22	焼夷弾	1		角野重喜智さん提供
23	菜莢	6		前川富也さん提供
24	防空用防毒面	一式		個人提供
25	防火用バケツ	1		個人提供
26	防空頭巾	1		個人提供
27	もんぺ	1		個人提供
28	防空頭巾	1		北川麗三さん提供
29	ブラウス	1		個人提供
30	もんぺ	1		個人提供
第3章 学童疎開				
31	姉から譲り受けた弁当箱	1	疎開先に持っていったもの	辰巳眞佐榮さん提供
32	世界名婦かるた(少女倶楽部新年号附録)	1	疎開先に持っていったもの	辰巳眞佐榮さん提供
33	精華国民学校の紅白のはちまき	一式	疎開先に持っていったもの	辰巳眞佐榮さん提供
34	大阪市精華国民学校疎開地 現地表	1		個人提供
35	大阪市精華国民学校疎開地 寮舎表	1		個人提供
36	お父さんから秋元一三さんへの手紙	1	大宝国民学校に関する展示	秋元一三さん提供
37	集団疎開したときに坂本正邦さんが書いた絵日記	1	大宝国民学校に関する展示	坂本正邦さん提供
38	集団疎開関係書類綴り	1	大宝国民学校に関する展示	個人提供
39	集団疎開保護者連絡名簿	1	大宝国民学校に関する展示	個人提供
40	泉慶寮のSさんからYさんへのはがきと手紙	2	堀川国民学校に関する展示	個人提供
41	湖北・学童疎開手記『よろこびのいづみ』と謄写版刷り	2	堀川国民学校に関する展示	個人提供
42	炊事日誌	1	堀川国民学校に関する展示	個人提供
43	寮務日誌	1	堀川国民学校に関する展示	個人提供
44	圓行寺寮の寮日誌	1	滝川国民学校に関する展示	長浜市立高月図書館提供
45	宮川敬一さんから園木邦子さんへのはがき	1	稲荷国民学校に関する展示	園木邦子さん提供
46	兄勇さんから園木邦子さんへのはがき	1	稲荷国民学校に関する展示	園木邦子さん提供
47	晴章さんから園木邦子さんへの手紙	1	稲荷国民学校に関する展示	園木邦子さん提供
48	吉坂チエさんから園木邦子さんへのはがき (昭和19年8月14日消印、昭和19年11月3日付)	2	稲荷国民学校に関する展示	園木邦子さん提供

49	疎開だより 第2号(昭和19年9月25日)	1	稲荷国民学校に関する展示	中野由紀子さん提供
50	家族から疎開していた園木邦子さんに送られた励ましのはがき	一式	稲荷国民学校に関する展示	園木邦子さん提供
51	母から園木邦子さんへの手紙	1	稲荷国民学校に関する展示	園木邦子さん提供
52	南杣寮寮母さんへの手紙	1	稲荷国民学校に関する展示	吉坂ちゑさん提供
53	学童疎開のことを書いた武田倫江さんの絵日記	1	複製品、(昭和19年)9月11日	武田倫江さん提供
54	昭和18年度 天津三笠日本国民学校「通告簿」	1		奥 紀子さん提供
55	昭和18年・19年度愛知郡愛知川国民学校「通告簿」	1	加設科目に「勤労」という科目があります。	個人提供
56	慰問の習字	1		個人提供
57	慰問袋	1		個人提供
58	手製の座り机	1		個人提供
59	長机	2		栗原 基さん提供
60	愛国唱歌集	1		個人提供
61	鉱物標本	一式		宇野博己さん提供
62	教科書『尋常小学校国語読本 巻一』	1		個人提供
63	教科書『算数の学習』五年用下	1		個人提供
64	教科書『尋常小学修身書 巻四』	1		個人提供
65	教科書『尋常小学理科書』	1		個人提供
66	算数練習用カード	一式		個人提供
67	『滋賀縣郷土讀本』	1	滋賀県教育会編、昭和9年9月発行	佐々木鶴高さん提供
68	墨塗りの教科書	1		滋賀県
69	児童用学生服	一式		個人提供
70	寮舎門標「大阪市桃園国民学校疎開児童宿舎」	1		明德寺提供
71	寮母辞令	1		明德寺提供
72	お父さんから池田喬子さんへのハガキ	1	中大江国民学校に関する展示	池田喬子さん提供
73	学業精励賞状	1	中大江国民学校に関する展示	池田喬子さん提供
74	お父さんから池田喬子さんへの手紙	1	中大江国民学校に関する展示	池田喬子さん提供
75	お姉さんから池田喬子さんへの手紙	1	中大江国民学校に関する展示	池田喬子さん提供
76	大阪空襲で焼け残った湯呑(昭和20年6月7日罹災)	一式	中大江国民学校に関する展示	池田喬子さん提供
77	お母さんから池田喬子さんへの手紙	1	中大江国民学校に関する展示	池田喬子さん提供
78	水差し	1	中大江国民学校に関する展示	池田喬子さん提供
79	万年筆	1	中大江国民学校に関する展示	池田喬子さん提供
80	糸巻き	1	中大江国民学校に関する展示	池田喬子さん提供
81	はさみ	1	中大江国民学校に関する展示	池田喬子さん提供
82	中大江国民学校徽章	1	中大江国民学校に関する展示	池田喬子さん提供
83	茶碗	1	中大江国民学校に関する展示	池田喬子さん提供
84	おはじき	一式	中大江国民学校に関する展示	池田喬子さん提供
85	「大東亜」貿易ゲーム盤	1	中大江国民学校に関する展示	池田喬子さん提供
86	『疎開の記録(其の一)』	1	複写、昭和19年10月	沙加戸圭夫さん提供
87	学童疎開時の日記	1	複写	沙加戸圭夫さん提供
88	食器皿	1		個人提供
89	手製の一升ます	1		個人提供
90	子ども茶碗	1		滋賀県
91	疎開児童の食事の復元	一式	食品サンプル	個人提供
92	紙芝居「防諜紙芝居 しゃべるな聞くな」	一式		個人提供
93	イナゴ捕り袋等(復元品)	一式	イナゴ捕り袋、竹製ぼっくり、竹製ひばり笛、竹製紙鉄砲、竹とんぼ、竹製機関銃、竹製弾き鉄砲	高月町東物部老人クラブ提供
94	貯金箱	1		個人提供
95	翼賛カルタ	一式		個人提供
96	おもちゃの剣	1		個人提供
97	おもちゃの機関銃	1		個人提供
98	学童用衣料品購入票	6		個人提供
第4章 建物疎開				
実物資料の展示なし				
第5章 空襲				
99	空襲による銃撃を受けた民家	3	①垂れ壁、②天井、③床板	個人提供